



創立120周年

東京歯科大学広報



卒業生代表三友啓介による答辞:平成22年3月25日(木)、千葉校舎講堂

■第115回卒業証書・学位記授与式

第115回卒業証書・学位記授与式は、平成22年3月25日(木)午前10時より千葉校舎講堂において挙行され、第115期卒業生121名が晴れの門出を迎えた。

式は、本学混声合唱部による校歌斉唱の後、佐藤 亨学生部長による開式の辞に続いて、列席者一同国歌を斉唱し、開式した。

薬師寺 仁副学長の学事報告に続いて、小田 豊教務部長の呼名により卒業生121名が一人ずつ登壇し、金子 讓学長より卒業証書・学位記が授与

された。また三友啓介君は学長賞として、賞状及び金メダルの授与も受けた。続いて血脇賞の受賞者4名を代表し大平貴士君に、精励賞の受賞者14名を代表し井上裕梨さんに、また卒業論文賞21名を代表して、宮田麻未さんにそれぞれ賞状及び金メダルが授与された。また、平成20年にご逝去された故井上 裕前理事長のご遺徳を受けて前年度の卒業式より「井上 裕賞」が設置され、大平貴士君が受賞した。

その後、金子学長が卒業生に対し告辞を述べら

2010年2・3月

本号の主な内容

241号

- ・第115回卒業証書・学位記授与式
- ・平成21年度口腔科学研究センターワークショップ開催
- ・第59回歯科衛生士専門学校卒業証書授与式
- ・平成22年度時間割表
- ・平成22年度学年暦

れ、続いて熱田俊之助理事長、大山萬夫同窓会会長が祝辞を述べられた。また、在学生代表の黄地健仁君(5年)から送辞が贈られ、これに応じて卒業生代表の三友啓介君が答辞を述べた。

最後に久保周平講師(口腔健康臨床科学講座)の指揮、高橋由香里さん(5年)の伴奏により全員で校歌を斉唱し、第115回卒業証書・学位記授与式は閉式した。

引き続き記念品贈呈式が行われ、大学、同窓会、父兄会からそれぞれ卒業生へ、卒業生一同から大学へ記念品が贈呈された。その後、卒業生は体育館2階アリーナへ移動し、恩師と共に記念撮影に臨んだ後、第4教室にて受賞者に井出吉信副学長より賞状・金メダルが授与され、すべての行事が無事に終了した。

学事報告

東京歯科大学

副学長 薬師寺 仁

現在、本学に在籍する学生は、814名であります。

これらの学生の教育については、専任者として教授58名、准教授51名、講師75名、助教118名、助手1名の合計303名、このほかに臨床教授等、嘱託教員、客員教員および非常勤講師、合わせて491名が担当しております。

本日、第115回卒業証書授与式において卒業証書を授与される者は、前記在籍者のうち121名であります。これを大学設置以来の卒業生と合わせますと8,222名、専門学校設置以来の卒業生と合わせますと14,235名となります。

なお、高山歯科医学院創立以来の卒業生を通算しますと14,526名となります。

平成22年3月25日



金子学長より井上裕賞を授与される卒業生:平成22年3月25日(木)、千葉校舎講堂



祝辞を述べる熱田理事長:平成22年3月25日(木)、千葉校舎講堂



告辞を述べる金子学長:平成22年3月25日(木)、千葉校舎講堂



緊張の面もちで式に臨む卒業生:平成22年3月25日(木)、千葉校舎講堂

告 辞

東京歯科大学
学 長 金 子 謙

115期の皆さん卒業おめでとうございます。

皆さんの母校は今年ちょうど創立120周年となりますので、皆さんはこのうちの20分の1を過ごしたことになります。私の学長職は、皆さんの入学の年から始まりこの5月末に2期目の任期が終了致します。従いまして、115期は私にとりまして思い出の深い学年でありますので、本日この卒業式に出席できなかった皆さんの学友の今後の1年間の健闘をまず共に祈りましょう。

皆さんが在学していた6年間は文部科学省、厚生労働省行政におきまして大きな変化があり、本校もそうした教育・研修政策への対応をして参りました。その大綱は「歯科医師の資質向上」でありまして、この方策として卒後研修医制度の義務化、CBT、OSCE、国家試験合格率の低下策などが皆さんの在学中に正式に導入されました。学生は教師の鏡でもありますので本学は教員の資質向上にも努めております。積極的な教職員研修や教員評価の充実と教員の任期制など、こうした政策に対応できる体制としていきます。

歯科大学の使命は、教育による人材育成、研究による歯科医療の発展、診療による地域医療への貢献と教育研修であります。教育・研究そして診療は、それぞれの役割が異なりますので、各々独立させた機関とすることも可能であります。このようなことから、教育と研究における大学の性格を明確にするよう文科省は要望しております。しかし、学生が質の高い研究機能と、質の高い病院機能を有する歯学部に在学することが、将来における高い医療人としての素養を養うのだと私は考えています。したがって、競争と連携、そしてグローバルという大学運営のキーワードの中で、本学は歯科大学の使命という鼎を不安定にさせないために、教育・研究・診療の3つを鼎の3本脚として、それらの質をバランスよく均一にするように意図しております。

皆さんは学業でこれまでかなり高いハードルを一つ一つ越えてきました。ここで皆さんは努力することが前進することに繋がることを学んだ筈です。また、学生生活のクラブ活動においても大いに活躍しました。例えば全日本歯科学学生総合体育大会では、最近3年間で総合成績を4位3位2位と順次上げてきました。東京歯科大学の学生は試験に追いたてられてはいますが、しっかりと学生生活を有意義に過ごしている一つの査証であります。皆さんは学生生活を通じて、達成感も失意も味わい、学業やクラブや友人関係で、協調性や他人の尊重などを培ってきました。しかし、これらは学園という枠の中でのことでありましたが、これからはその枠はなくなり無限の世界に自己を置くことになります。東京歯科大学で学んだことが試されるのはこれからであります。今後は皆さんが設定した目標は試験の合否のように評価が明確なものは少なく、例えば日常の臨床では「出来て当たり前」でありまして、失敗すれば皆さんの人生を奈落の底に落とすものまで待ち構えています。学び、そして得た知識・理論、さらに情報が直面した現実や実態とずれていることに悩まされることがしばしばあるでしょうが、その理由がどこにあるのか考察する習慣、つまり研究マインドを身に付けてください。

21世紀は「知識基盤社会」と言われ、先進国では20世紀の「工業生産社会」からすでに脱皮が始まった兆候が経済や人々の価値観を主体に現れています。皆さんは新しい社会のパラダイムの中で過ごしていきますので、自己を確立して価値ある人生を送ってください。

皆さんの学生生活は知識・技術を得ただけでなく心身を鍛えるに十分な環境でもありましたので、ここで得た自信と知恵をもって将来の変化にしなやかに対応しながら己の志に向かって行ってください。そこで、成功のための秘訣として「精神は大胆に、段取りは繊細に」という福澤諭吉の言葉を贈ります。

東京歯科大学の歴史は、高い志を困難な状況の中で一貫して追い求めてきたことです。それは歯科医学の確立、歯科医療の普及、そして歯科医師の身分向上ということですが、このことは近代日本の教育制度への挑戦であり、戦闘的とも言えます。血闘守之助先生を筆頭として多くの先達の「知と情と義侠」

という人間性を根本に据えた長い戦略性をそこから感じ取ることが出来ます。この学風を野口英世先生は「高雅」つまり品性が高く優美と形容しています。長い歴史から培われた東京歯科大学の学風に皆さんは育てられたのです。挫折し、心が萎えたとき東京歯科大学120年の歴史は皆さんを力づけるでしょう。この歴史を自らが知りたくなったときには、母校の図書館においでください。

東京歯科大学の学校法人は、日本の将来を見据え、皆さんの母校の更なる発展のためにキャンパスの主体を30年間お世話になったこの地から水道橋に返します。母校のニュースはネットから容易に知ることが出来ますので、情報を共有し、皆さんの後輩のため、明日の国民医療のために共に歩もうではありませんか。

皆さんの職業は、「他と共に生きることが自分を生かす」という崇高な本質を持っています。115期の皆さんの実り多い今後を願って告辞と致します。

本日ご臨席いただいた保護者の皆様に敬意と祝意を表します。

祝 辞

学校法人東京歯科大学

理事長 熱田 俊之助

早春のこの佳き日に、第115回卒業証書授与式を迎えるにあたり、卒業生並びに保護者の皆様に法人を代表して、お喜び申し上げます。

まず、お子様方を手塩にかけ今日までお育てになられた保護者の皆様におかれましては、本日卒業式を迎えられ、感慨無量のものがあろうと存じます。誠におめでとうございます。心から、お祝い申し上げます。

あわせて、今日まで、物心両面にわたり、本学の発展のために賜ったご協力、ご支援に、改めて感謝申し上げます。

また、一同窓として、金子学長をはじめとする大学関係者の皆様方の御尽力に深く敬意を表します。

さて、卒業生の皆さんは、本日この日に至るまで、沢山の努力をし、さまざまな困難を乗り越え、頑張り切ることを学び、自らの持続する意思と努力で階段の一つ登られたことを実感していると思います。

卒業は一つの区切りではありますが、到達点ではありません。人生行路においては、一つの通過点があります。皆さんは、本学で学び、経験したことを糧に自信と誇りを持って、これからの長い人生行路を歩んでいかれることと思います。

先日、日経新聞に慶應義塾の創立者である福澤諭吉先生の「学問のすすめ」の最終編である「人望論」に関するエッセーが掲載されていました。福澤翁は、人望、つまり他人から信頼されるような人物であれ、と説いた上で、そのために重要な事柄を三つ挙げています。

第一に、難解な用語ではなく、分かりやすい日本語を用いて分かりやすい表現をせよ。

第二に、顔色容貌を快活にせよ。

第三に、専門だけに閉じこもらず、いろいろな人と交際せよ。

つまり、人望は、広く社会と交わり、努めて求めるべきである。そのためには、言語を使いこなし、好印象を得られるような身なりをし、違う分野の人とも積極的に交わるべし。ということです。そしてこうも言っています。藪医者（やくいしや）が玄関（げんかん）を立派にただけで流行することも世の中にはあるが、それは虚名であり、荣誉人望ではない。

皆さんは常に謙虚さを失わず、活発な才智の働きと正直な本心の徳義とをもって、真の人望を培っていただきたいと思います。

現在、歯科医療は大変厳しい時代を迎えております。様々な社会的要請や多くの問題が残されております。皆さんは、この不透明で、不確実な時代だからこそ、努力と精進を怠らず確固とした信念にもとづいた判断をし、より創造的な自己を形成することに努めてください。皆さんが持っている才能は無限

です。

どうか今後とも更なる学究や実践に励まれ、国民福祉の向上、歯科界の発展に貢献されますことを念願し、私の饒の言葉と致します。卒業おめでとう。

祝 辞

東京歯科大学同窓会
会 長 大山 萬夫

東京歯科大学創立120周年を迎える記念すべき本年、ここに第115回卒業証書授与式を挙げるにあたり、同窓会よりお祝辞を申し上げます。卒業生の皆さん、並びにご列席のご父兄の皆様おめでとうございます。同窓会を代表致しまして心よりお祝い申し上げます。入学以来6カ年歯科医学の習得そして医療人としての人格形成に努力され、本日ここにめでたくご卒業の日を迎えられましたこと皆様にお慶びの言葉を贈りますと共に、今日まで深い愛情と理解を持ってお支え頂いたご父兄各位のご苦労に対して衷心より敬意を表す次第であります。

また卒業生皆さんの教育指導に当たられた本学教職員の皆様に心より御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは115年の歴史と伝統に輝く全国109支部8000有余名の会員をもつ東京歯科大学同窓会の会員の一人となられました。本同窓会は会員相互の親睦と福祉の増進を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的に活動致しております。多くの会員が政界、学会、医療界等にて活躍され、歯科界の発展と国民歯科医療の向上増進に寄与すべく努力いたしております。

本日ここに新しいパワー、無限の可能性を秘めた誠に頼もしい新会員をお迎え出来ました事は同窓会事業の推進に大きなエネルギーであり、大いに期待致すところであります。

いま日本人の平均寿命は年々延びて来ており、国民の皆様は健康指向が強く、歯科医療に対する関心は非常に高いものがあります。口腔を包括した全身への健康管理が望まれてきております。この様なとき卒業された皆様には今後全人的医療の確立を目標として日々の診療に対応して頂きたいのです。本同窓会は学術講演会、特に年間を通じて卒後研修セミナーを開講し、支援いたしております。これはマンツーマンのきめの細かい実技を伴った研修であります。生涯研修のスタートと位置付け是非受講頂き、信頼の医療の確立をお願い申し上げます。また参加することにより先輩・後輩の絆もより一層強固なものとなりましょう。

昨日本の経済はご承知の様にリーマンショック以来大変厳しい状況下であり、歯科医療界も同様ですが、皆さん恐れる事はありません。吾が母校東京歯科大学の建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」血脇守之助先生のお言葉を座右の銘とし、良心と尊厳を持って、自分の専門職である歯科医療を愛して貫徹して下さい。もちろん自分の健康と福祉を念頭におかれ、邁進されれば必ず道は明るく、広く展開するものと確信致しております。

終わりに臨み、歯科医師臨床研修の充分なる成果をご期待申すと共に、本日ご来場の皆様をはじめ卒業生ご一同のますますのご健勝とご発展を心より祈念致します。

これをもって祝辞と致します。

送 辞

在学生代表
黄地 健仁

梅の花が咲き、桜もほころび始めるこの良き日、晴れて卒業証書授与式を迎えられた卒業生の皆様に対し、在校生一同心より御慶び申し上げます。

顧みれば、皆様は歯科医学を志しこの東京歯科大学に御入学されてから今日までの間、多くの出会い

や経験、そして困難を乗り越えられたことと思います。それらの出会いや経験は、学生時代の良き思い出として皆様の心の中に深く刻まれるとともに、これからの人生においても、必ず大きな心の支えとなることでしょう。

さて、歯科医療の進歩とともに、私達を取り巻く社会環境、そして歯科医療を取り巻く環境はますます複雑で、多くの問題を抱えています。しかしながら本学で学ばれた知識と技術、精神を糧に、これから待ち受ける数々の大きな困難を乗り越え歯科界で御活躍されることでしょう。皆様が本学で歩まれた御姿を模範とし、我々在校生はこれからも東京歯科大学の発展、そして歯科医学の探求に精進する所存でございます。

最後に、皆様がこれまで良き先輩として私達を導き、励ましてくださったことに心から感謝の意を表し、今後の御活躍と御多幸を御祈りしつつ、在校生一同心より御祝い申し上げて、御卒業される皆様への送辞とさせていただきます。

答 辞

第115期卒業生代表

三友 啓介

陽の光は次第にやわらかく、色とりどりの花が咲きほころぶ季節となりました。

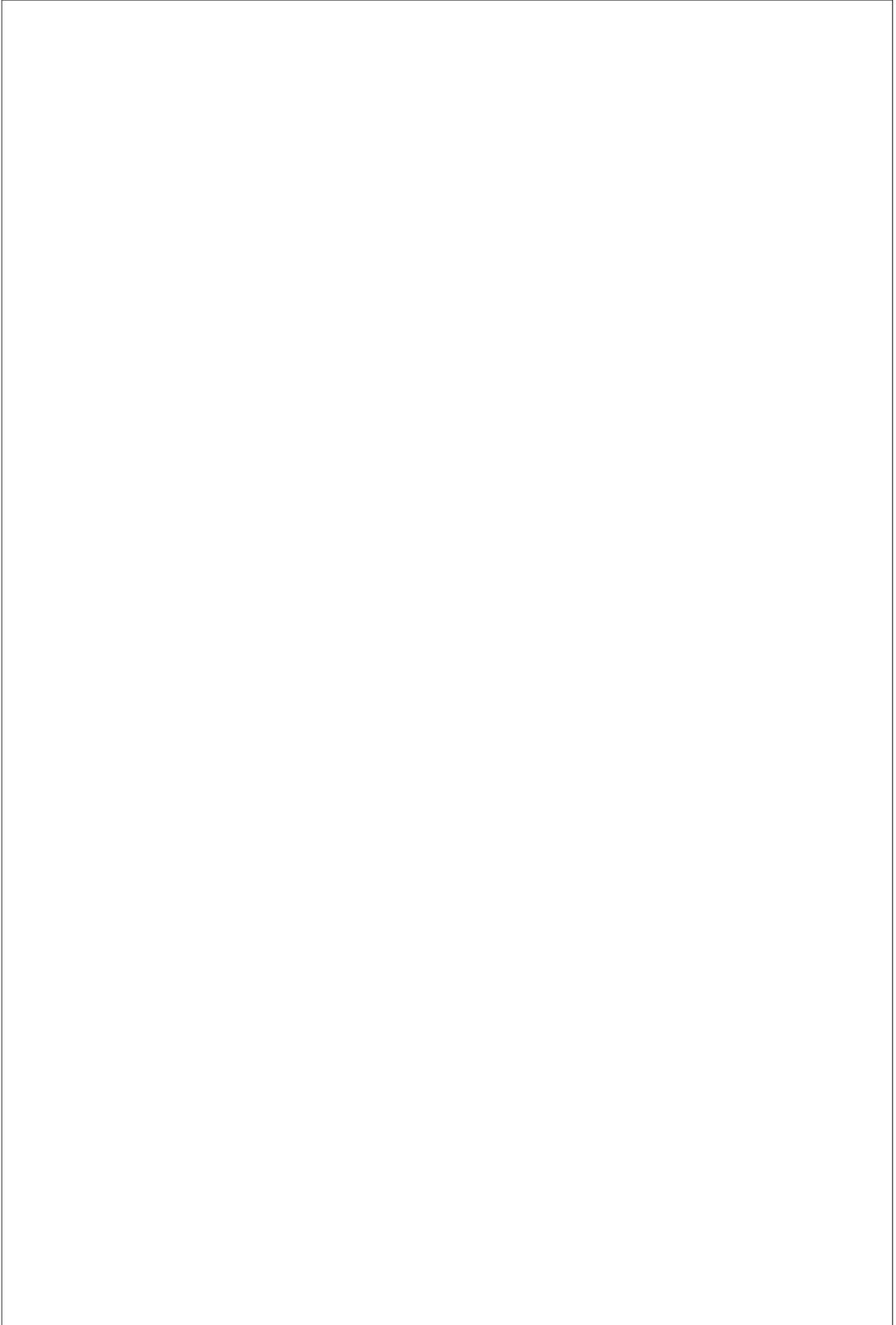
本日は、私たちの卒業証書授与式に、ご来賓ならびに諸先生方をはじめ多数の皆様のご臨席を賜り、卒業生一同、心より厚く御礼申し上げます。

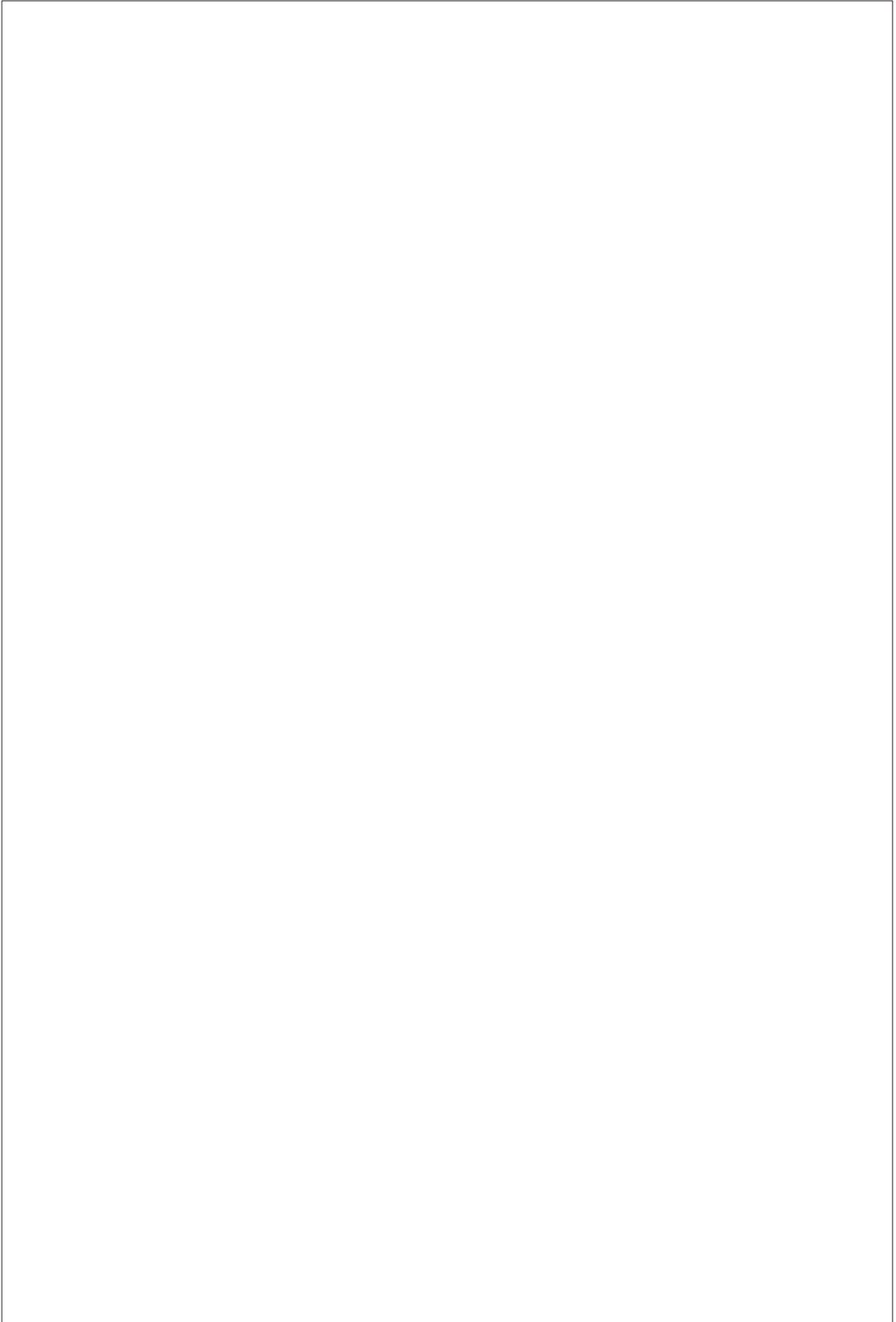
只今は、金子学長の告辞、そして熱田理事長はじめご来賓の皆様より示唆に富んだ励ましのお言葉を頂き大変、身の引き締まる思いでございます。また、在校生の皆様からは心温まる送辞を頂き、本当にありがとうございました。

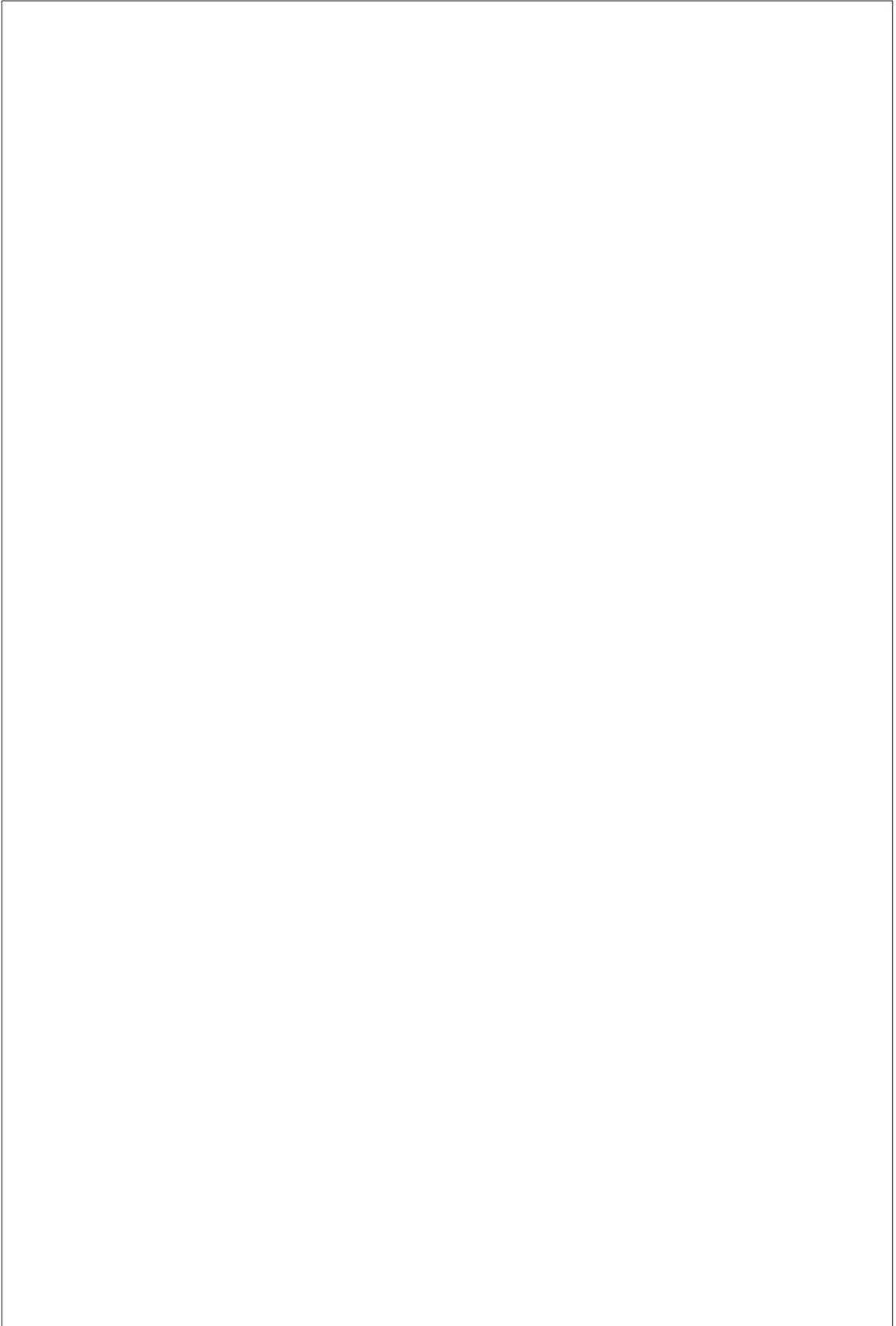
思い返してみますと、平成16年に本学に入学してから6年間、歯科医師になるべく日々血のにじむような努力をしてまいりました。しかし、その努力は私たちだけでは到底なしえなかったものであります。熱心で親身なご指導をしてくださりました諸先生方、より良い学習環境を整えてくださった職員の皆様、部活動や学生生活を通じて出会った先輩方や後輩の皆さん、そしてここにいる級友たちがいたからこそ、今私はこの卒業式を迎えることができるのだと思います。また、忘れてはならないのが両親の存在です。この6年間、私は両親に迷惑をかけながら、自分の好きなように、自由に学生生活を楽しむことができました。心配させてしまったことも多くありましたが、それでも陰ながら温かく見守ってくれたからこそ、この学生生活で私は多くのことを学び、素晴らしい思い出を得ることができたと実感しております。

私たちはたくさんの方々にお世話になり、また時にはご迷惑をおかけしながら、その度に成長することができ、今日この日を迎えております。そして今、歯科医師としてようやくスタートラインに立とうとしています。日々厳しさを増す歯科医療界ではありますが、東京歯科大学で培った知識・技能・態度を基に努力を重ね、研鑽を積んでいけば、必ず今日の現状を切り抜けられると確信しております。そしていつの日か、まだまだ未熟な私たちではありますが、諸先生方のように、未来の歯科界を引っ張っていく存在になれるよう精進していく覚悟であります。

最後になりましたが、これまでご指導くださいました諸先生方、様々な場面で支えてくださった職員の皆様、温かく見守ってくださったご父兄の方々、そして私たちの大学生活に関わってくださった全ての方々に改めて深く御礼申し上げますとともに、在校生の皆さんのご活躍と東京歯科大学のより一層の発展を願って、答辞とさせていただきます。



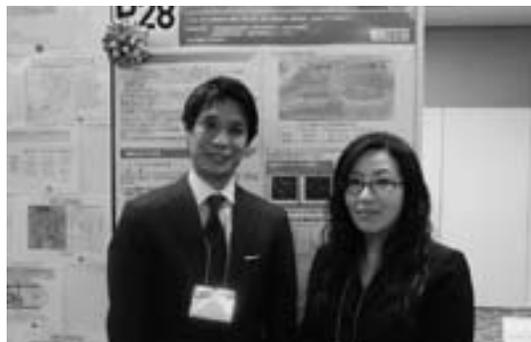




学内ニュース

■日本口腔腫瘍学会で口腔健康臨床科学講座 片倉 朗准教授が優秀ポスター受賞

平成22年1月28日(木)、29日(金)に東京・一ツ橋の学術総合センターで行われた第28回日本口腔腫瘍学会学術大会で、口腔健康臨床科学講座口腔外科学分野の片倉 朗 准教授が優秀ポスター賞を受賞した。片倉准教授らは緑茶の成分であるカテキンを口腔白板症の治療に応用する研究を4年前から口腔外科学講座において(株)伊藤園と共同で進めており、既に柴原孝彦教授とともに特許出願を行っている。今回は「口腔白板症に対する緑茶カテキン軟膏の臨床的効果 第3報」と題し、千葉病院口腔外科で行ってきたカテキン軟膏の臨床治験の途中経過、ならびに口腔科学研究センターで行ったカテキン軟膏の口腔粘膜への局所的浸透度と作用について検証した結果を口腔外科学講座、(株)伊藤園とともに報告した。日本人が日常的に摂取し数々の効用が言われている緑茶に注目し、基礎実験と臨床応用が結びつきたいいわゆる Translational researchは、多くの参加者の興味を引いた。今後もさらに本学で臨床治験を進めて早期の製品化を目指す。



受賞した片倉准教授と共同研究者の口腔外科学講座関根理予大学院生:平成22年1月29日(金)、東京・一ツ橋 学術総合センター

■一般入学試験Ⅰ期・大学入試センター利用試験Ⅰ期、一般入学試験Ⅱ期・大学入試センター利用試験Ⅱ期、編入学試験実施

平成22年度一般入学試験(Ⅰ期)・大学入試センター利用試験(Ⅰ期)が、平成22年2月2日(火)午前9時から水道橋校舎及び大阪会場(天満研修

センター)において実施された。Ⅰ期は、一般入学試験244名、大学入試センター利用103名、併願者83名、合計347名(実数264名)の志願者があった。一般入学試験志願者には英語、数学、理科の3科目の学力試験、小論文、面接を実施した。大学入試センター利用試験志願者は、1月16日(土)、17日(日)に実施された大学入試センター試験において本学が指定した科目を予め受験してもらい、2月2日(火)に水道橋校舎及び大阪会場において小論文、面接試験を実施した。一般(Ⅰ期)は2月5日(金)、大学入試センター利用(Ⅰ期)は2月9日(火)午後4時に本学ホームページにて合格者が発表され、合格者に合格通知が発送された。

平成22年度一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用試験(Ⅱ期)が、平成22年3月13日(土)午前9時から水道橋校舎において実施された。また、今年度から導入された編入学試験も同時に実施した。なお、編入学試験受験者は、英語、数学、理科の3科目の学力試験、小論文、面接を受験し、来年度の第2学年に編入学する。一般入学試験は70名、大学入試センター利用18名、併願者17名、合計92名(実数71名)、編入学試験は4名の志願者が集まった。合格者には3月16日(火)に合格通知が発送された。

■平成21年度水道橋病院臨床研修歯科医症例報告会開催

平成22年2月15日(月)午後6時より、水道橋校舎血協記念ホールにおいて、平成21年度水道橋病院臨床研修歯科医症例報告会が開催された。本会は、1年間の臨床研修の総括として、臨床研修歯科医自らが治療を行った症例について学会形式で報告するものである。第7回目となる今回は、19名の臨床研修歯科医全員が口頭発表による症例報告を行った。

当日は、院内の教職員をはじめ、協力型臨床研修施設の指導医の先生方にもご出席いただき、臨床研修歯科医の発表に対して貴重なコメントをいただくことができた。臨床研修歯科医は、それぞれ極めて真摯な態度で発表を行い、それに応えて活発な質疑応答がなされ、全ての参加者にとって

非常に有意義な報告会となった。



発表風景:平成22年2月15日(月)、水道橋校舎血脇記念ホール

■第4学年共用試験CBT-OSCE実施

平成17年度から正式実施となった『臨床実習開始前の学生評価のための共用試験』（医療系大学間共用試験実施評価機構）が、第4学年生を対象に行われた。これは、社会からの要請に応え、信頼される医師・歯科医師を養成するために、全国の医歯学部を有する大学が参加し、診療参加型臨床実習を推進するにあたり学生が一定水準以上の知識、技能、態度を有しているか評価するものである。CBT（コンピュータによる客観試験:知識領域）が、平成22年2月18日(木)に千葉校舎第1,2教室で、OSCE（客観的臨床能力試験:態度・技能領域）が、2月28日(日)に千葉校舎臨床基礎実習室、臨床シミュレーション実習室、セミナー室等において実施された。また、CBT追・再試験が3月11日(木)に行われた。

CBTは、約130名の学生が一斉にコンピュータ画面に向かって多肢選択式の試験に取り組んだ。今年も昨年同様、選択肢が6つ以上設けられる多選択肢問題の2連問(L形式)順次解答型五肢択一問題の2連問、4連問(W,Q形式)、五肢択一問題(A形式)の各形式で合計320問、6時間におよぶ試験が行われた。学生は、最後にコンピュータ上でアンケートに答え、試験を終了した。

OSCEは、医療系大学間共用試験実施評価機構で策定された共通課題、評価シート、評価マニュアルに従って実施され、医療面接・説明指導系2課題、技能系4課題にレスト(休憩)を加えた7ステーション(ST)で実施された。他大学から6名の外部評価者、外部から7名の標準模擬患者(SP)の協力を得て、総勢150名を超えるスタッフを動

員して行われた。臨床実習を間近に控えた学生たちは、真剣な面持ちで試験に臨んでいた。

■大学院入学試験Ⅱ期実施

平成22年度大学院入学試験Ⅱ期、社会人特別選抜及び口腔がん専門医養成コースが、平成22年2月20日(土)午前9時30分から千葉校舎において実施され、外国語(英語)試験および志望講座における主科目試験・面接が行われた。Ⅱ期は14名、社会人特別選抜は3名の志願者があり、17名が受験した。合格者の発表は2月26日(金)正午に行われた。

■第91回歯科医学教育セミナー開催

平成22年2月22日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第91回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、東京医科歯科大学歯学部附属病院 総合診療科 大山 篤先生を講師にお迎えし、「歯科医学教育におけるポートフォリオの活用と評価」と題した講演を伺った。

まずはじめに、学生や研修歯科医が歯科医療従事者の専門家になるために、熟達するためのルールやスキルの獲得モデルを提示することにより、課題が明確になり、自身が確かな臨床能力を備えた歯科医師を目指し、研修・学習をしていくにあたりポートフォリオの活用と評価が有効であると説明があった。

具体的に東京医科歯科大学歯学部附属病院臨床研修で実際に導入されているポートフォリオでは、研修歯科医が毎日の診療で最も印象に残った症例から学んだ事や1週間の診療の中で、新しく修得したこと、注意すべき点等をフォーマットに従って記載し、ポートフォリオに綴じこみ、毎週金曜日に研修センターに提出する。そして、指導医が研修医の記載に対してフィードバックを行うことで、研修内容や目標の到達度、課題が明確になり、より効果的に研修に取り組むことができる旨説明があった。実際に研修医からも「勉強のきっかけになった」「知識の確認になった」等ポジティブな意見があったとのこと。

最後に、段階的に改良をして取り組んできたポートフォリオについて、今後も総括的評価の導入や指導医等のポートフォリオにかかる時間の負担について等の問題点を整理し、検討を重ね、取

り組んでいきたい旨報告があった。

当日は多数の参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



講演される大山先生:平成22年2月22日(月)、千葉校舎第2教室

■平成21年度第8回水道橋病院教職員研修会開催

平成22年2月22日(月)午後5時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、第8回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、学術・教養に関する研修として、千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科科长の石田 瞭講師による「歯科から行う摂食・嚥下リハビリテーション」と題した講演があった。

「摂食・嚥下」とは、食物の認識から始まり、食塊が食道を通過し胃に入るまでの過程と定義されている。食塊が咽頭に達すると嚥下反射が生じ、咽頭が挙上し気道閉鎖して食道に移送されるまでの運動が、わずか1秒以内で行われるという。こうした機能が正常に行われているかを把握・評価するための検査として、嚥下造影検査や内視鏡検査が用いられている。気道内に食塊が入らないよう、咽頭蓋が後屈して咽頭口を閉鎖し、食道へ送られるのが正常な嚥下機能であるが、嚥下機能が低下すると、咽頭蓋谷や梨状陥凹部に食塊が停滞しやすくなり、咽頭蓋が後屈するタイミングがずれることにより誤嚥が生じてしまう。そして、機能障害が生じると、食事に時間がかかったり、むせたり、喉に食塊が残る等の症状を訴えるようになる。講演では、嚥下造影検査による誤嚥検査の実例が示された。

現在、日本は超高齢化社会に突入しており、加齢に伴う機能減退による経口摂取の問題が顕在化してきている。しかし、摂食・嚥下障害は高齢者に限ったものではなく、脳血管障害、脳外傷、

神経・筋障害等に起因しており、その後遺症が重度であればあるほど、回復が困難となると説明された。

摂食・嚥下リハビリテーションを必要とする患者は増加の一途にある一方、それを支えるコーディネーターの不在や実務者の少なさが課題として挙げられる。現在、従事者養成のために、診療科主催の症例検討会や、歯科医師会・医師会・スタディーグループ等の関連機関との共催による研修会等が開催されている。また、摂食機能障害を有する患者に対し1回につき30分以上の訓練指導を行った場合に、185点が保険診療として月4回に限り算定・請求することができる旨の説明があった。この「摂食機能療法」は、医師・歯科医師が直接行う場合、もしくは医師・歯科医師の指示の下に看護師、歯科衛生士等が行う場合も算定可能である。

最後に石田講師から、高齢者の摂食・嚥下のリハビリテーションへ歯科医療従事者の積極的な参加が強く望まれるとの強い呼びかけがあり、研修会は終了した。



講演する石田講師:平成22年2月22日(月)、水道橋校舎血脇記念ホール

■第302回大学院セミナー開催

平成22年2月26日(金)午後6時より千葉校舎第4教室においてカリフォルニア大学ロサンゼルス校教授および本学客員教授である西村一郎先生を講師にお迎えして「Pathophysiological mechanism of bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw (ONJ)」と題する講演を伺った。

ビスフォスフォネート製剤は近年、歯科処置を行う上で問題として取りざたされている。本セミナーでは、この薬剤が顎骨へ及ぼす影響について、ワイントロープ生体再建センターにおける講師の

研究チームの豊富な実験データをもとに、アニメーションを用い分かりやすく解説していただいた。また臨床において、顎骨壊死のリスクをいかに軽減するかを具体的に示していただいた。さらに、現在のビスフォスフォネート製剤に対する世界的認識及び日本国内での認識の問題点を挙げ、今後私達が臨床及び研究においてどのように取り組むべきか道筋を示してもらい、質疑応答も大変活発に行われ非常に有意義なセミナーであった。



講演される西村教授:平成22年2月26日(金)、千葉校舎第4教室

■平成21年度口腔科学研究センターワークショップ開催

平成21年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップが、平成22年3月5日(金)、千葉校舎第5教室において開催され、教員、大学院生をはじめ、名誉教授、出版報道関係者等100余名が出席した(市川総合病院、水道橋校舎にもテレビ会議システムを使用して同時配信した)。

ワークショップは、石原和幸教授(研究機器管理部長)の司会で開会し、初めに金子 譲学長から、研究拠点としての口腔科学研究センターの役割の重要性について述べられ、今回のワークショップを実りある時間としてほしいと挨拶があった。

続いて、井上 孝口腔科学研究センター所長が、「東京歯科大学の研究動向について」と題した基調講演を行い、現在進行中のプロジェクト7「口腔アンチエイジングによる生体制御」についての基本方針、行動目標を示しながら、本学のプロジェクト研究のあり方について講演した。

次に鄭 翰聖教授(延世大学校歯科大学・本学客員教授)による特別講演「韓国の科学研究費獲得戦略と歯学研究の現状」が行われ、韓国における歯学教育の現状について興味深い講演が行われ、活

発な質疑が行われた。

最後に、プロジェクト7 吉成正雄 副コーディネーターが座長となり、プロジェクト内の5つのグループの中から代表的な研究について5名の研究者から進捗状況の報告が行われた。まとめとして、同プロジェクトの井上コーディネーターより、本プロジェクトの研究成果が数多く論文として発表されていること、また、最終年度に向けて、各グループごとの成果の結びつきを明確にしていきたいと結んだ。



ワークショップ風景:平成22年3月5日(金)、千葉校舎第5教室

■平成21年度第9回水道橋病院教職員研修会

平成22年3月18日(木)午後5時30分から、平成21年度第9回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は保険診療に関する研修会として、今年度水道橋病院のカルテ指導を担当していただいた臨床教授の黒須 誠先生、非常勤講師の遠藤孝平先生、児玉重明先生、中西國人先生、山崎武雄先生、佐々木真澄先生、山口和彦先生にお越しいただき、今年度のカルテ指導の総括と平成22年4月からの保険改正の概要についての解説を受けた。

まず柿澤 卓水道橋病院長より挨拶があり、続いて黒須臨床教授より歯科臨床での正確なカルテ記載の重要性と必要性についての説明をいただいた。

講演は山口先生が担当され、カルテの記載内容はこの1年間個別に指導を続けてきて全体に改善傾向がある、との評価をいただいたが、歯周精密検査の算定漏れ、治療後の症状の変化に対する記載の不足などのまだ十分でない点に関する指摘があった。例えば拔牙や義歯装着、歯内療法後の治療評価は検査、診断、治療の流れとして概ね記載されているが、レジン充填、スケーリング、鋳造

冠装着後などの評価内容の記載もSOAP形式を用いて忘れずに記載することなど、具体的に指摘された。

引き続き山口先生より「平成22年保険改正概要」と題しての解説があった。その内容としては初診料、再診料の引き上げ、障害者歯科医療の充実として障害者に対する歯科衛生実地指導の評価の新設について、在宅及び障害者歯科医療に係る連携の促進のための診療情報提供料の加算、歯科疾患管理料の見直しや算定対象者の変更、義歯管理料の見直しとして新設された有床義歯調整管理料や歯科技工加算、歯周疾患に係る技術等の見直しとして加えられた混合歯列歯周組織検査や歯周基本治療処置、保険診療上の歯科用語の平易化等々、改正のあった各々の項目について詳細でわかりやすい説明があった。

そして今回の講演内容は、医療系職員のみならず事務系職員も日常の業務で直ちに活用しなければならない事項であり、参加者は終始熱心に聴講し、大変有意義な研修会となった。



講演される山口先生:平成22年3月18日(木)、水道橋校舎血脇記念ホール

■千葉校舎防災訓練実施

3月19日(金)午後1時30分から千葉校舎において防災訓練が実施された。

今回は、夜間防災訓練、火元責任者の通報訓練、初期消火訓練の3つの訓練が実施された。

始めに行われた夜間防災訓練は、あらかじめ選出された宿直者(口腔外科歯科医師)及び病院勤務者等約20名が参加し、夜間に火災が発生したことを想定して行われた。自力歩行が困難な患者も想定し、担架での搬送も行われ緊張感のある訓練となった。

続いて、行われた火元責任者の通報訓練では、

各教室幹事等の学内における火元責任者約70名が参加し、「地震が発生しました。」という訓練放送後、各自、担当地域を点検、被害状況を防災センターへ報告する訓練を行った。当訓練は毎回の防災訓練時に実施しており、火元責任者の自覚と当該意識の向上を目的としたものであるが、各自の役割が改めて確認できる訓練となった。

最後に、テニスコート脇において、実際に粉末消火器を使用し、模擬燃焼物を消火する初期消火訓練を行った。約40名の教職員が参加し、施設課の内山正二郎技術員から操法説明を受けた後、全員が実施した。普段からよく見慣れている消火器ではあるが、今回初めて自分で操作するという参加者も多く、大変有意義な訓練となった。



初期消火訓練に真剣に取り組む参加者:平成22年3月19日(金)、千葉校舎テニスコート脇

■第303回大学院セミナー

平成22年3月19日(金)午後6時より千葉校舎第2教室において、第303回大学院セミナーが開催された。今回はOrthodontic Early Treatment Centre, Chief DirectorのDr. John Flutterを講師にお迎えして「Myofunctional Influences on Facial Growth and The Dentition (顔面成長および歯列への筋機能の影響)」と題する講演を伺った。

最適な頭蓋顔面成長に必要なことは、休息時に舌背が口蓋粘膜に十分に接触していること、安静時に唇が閉じていること、安静時に上下の歯が接触しているかそれに近い状態にあること、無意識の嚥下時に口輪筋の活動がないこと、鼻呼吸をしていること、背骨と頭蓋の姿勢が正常なことである。これらが達成できていない患者には筋パターンを変え、歯の位置を変え、成長パターンを変えることが重要であるが、成長そのものを変えるこ

とのできるのは小児の成長期だけである。そして、この治療にはprefabricated functional applianceが簡便かつ有用であることをお話しいただいた。大変内容の濃い有意義な1時間のセミナーであった。



講演されるDr. John Flutter:平成22年3月19日(金)、千葉校舎第2教室

■平成21年度東京歯科大学千葉病院臨床研修ワークショップ開催

平成22年3月24日(水)午前9時より千葉校舎・実習講義室および各セミナー室にて平成21年度東京歯科大学千葉病院臨床研修ワークショップが開催された。ワークショップは毎年3月に臨床研修歯科医を対象として実施しており、今年度は研修歯科医91名の出席者でワークショップを行った。

ワークショップのテーマを「平成21年度歯科医師臨床研修について」とし、今後の歯科医師臨床研修をより良いものとするため、出席した研修歯科医総勢91名が12グループに分かれて、研修歯科医の立場から各プログラムの問題点を抽出、問題点への対応と解決策を考察した。ワークショップの運営委員は角田正健研修管理委員長、高橋俊之研修管理副委員長、高瀬保晶研修管理委員、山倉大紀研修管理委員、杉山利子研修管理委員、近藤祥弘研修管理委員、野呂明夫研修管理委員、久木留伸享研修管理委員が担当した。

ワークショップは石井拓男千葉病院長の挨拶、高橋研修管理副委員長の概要説明後、各グループがテーマについての問題の抽出、問題点への対応と解決策の作業を行った後に発表および質疑応答を行った。質疑では研修歯科医のプログラムに対する率直な質疑応答が行われ、また、今年実施される歯科医師臨床研修に関する厚生労働省令改正

についても意見交換があり、今後の歯科医師臨床研修の見直しに大いに有意義となった。すべての作業が終了した後、角田研修管理委員長より総評があり、午後5時10分にワークショップは終了した。



歯科医師臨床研修の問題点への対応と解決策を発表する研修歯科医:平成22年3月24日(水)、千葉校舎実習講義室

■第103回歯科医師国家試験結果

第103回歯科医師国家試験は、平成22年2月6日(土)、7日(日)の両日に実施され、3月29日(月)に合格者が発表された。今回は、全国で3,465名が受験し2,408名が合格。今回の試験の合格率(全国平均)は69.5%となっており、昨年度を若干上回る成績となったが、昨年度と同様、厳しい試験結果となった。

その中で、本学からは平成22年3月卒業の第115期生121名、既卒者19名の計140名が受験、見事126名が合格した。合格率は90.0%(新卒者のみは93.4%)で、私立歯科大学・歯学部17校の中での合格率は1位であり、国公立大学を含めた総合順位でも第3位と健闘し、改めて歯大トップクラスの実力を証明したと言える。

■第92回歯科医学教育セミナー開催

平成22年3月30日(火)午後6時より千葉校舎第1教室において、第92回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、群馬大学医学部附属病院医療情報部・部長 酒巻哲夫教授を講師にお迎えし、「患者主役の講義から『患者と作る医学の教科書』編纂への道程」と題した講演を伺った。

近年の医療現場で求められている医師—患者間のコミュニケーションのレベルは高く、医療技術の高度化と患者の権利意識の変化に伴い、患者中心の医療を望む声が増えてきているが、教育の方

法が確立されていない旨説明があった。

そこで、群馬大学医学部では、第5学年の臨床実習に外来や入院の患者さんを1日エスコートして患者側に立ち位置をおく実習を導入し、また、「患者さんの声を聞く」と題した講義を構成し、患者を講師に招くことにより、普通の教室では無いような緊張感が出て、学生からは「改めて医療人は人と人の付き合いであり、患者さんの痛みや苦しみを緩和させてあげるべきもの」等の意見が出てくるなど、学生の医学を学ぶ姿勢に変化がみられた旨説明があった。

本学は平成21年10月より文部科学省の大学教育推進事業【テーマA】に採択され「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成」に取り組んでいるが、特に、ペイシエント・コミュニティー(P-Com: 歯科医学教育への協力を賛同し、登録した患者さん及び父兄会等で構成)の運営に参考になる部分が多く、当日は多数の参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



講演される酒巻教授:平成22年3月30日(火)、千葉校舎第1教室

■平成21年度臨床研修修了式開催

平成21年度の臨床研修修了式が千葉病院、市川総合病院、水道橋病院の三病院でそれぞれ行われた。

千葉病院では、平成22年3月25日(木)午後1時30分より、千葉校舎実習講義棟3階歯科臨床研修医室において、平成21年度歯科医師臨床研修修了式が行われた。式は高橋俊之研修管理副委員長の開式の辞に始まり、石井拓男千葉病院長から修了者を代表して、石上貴之臨床研修歯科医に修了証が授与された。その後、石井千葉病院長による訓辞、角田正健研修管理委員長の挨拶が行われ、

修了式は無事に閉式した。

市川総合病院では平成22年3月23日(火)午前8時30分から市川総合病院第2・3会議室において、医科と歯科の臨床研修医修了式が合同で行われた。式は司会の間部克善事務部長の開式の辞により始まり、安藤暢敏市川総合病院長から研修修了者(医科8名、歯科6名)に修了証が授与された。引き続き安藤市川総合病院長の訓辞が行われ、その後西田次郎研修管理委員長、山根源之副病院長(歯科研修管理委員長)の挨拶があり、修了式を閉式した。

水道橋病院では、平成22年3月26日(金)午前9時より、水道橋校舎第1・2会議室で行われた。式は司会の古澤成博研修管理委員会委員長の開式の辞に続いて、柿澤卓水道橋病院長より研修修了者19名に修了証が授与された。引き続き、柿澤水道橋病院長より訓辞をいただき、2月15日(月)に開催された「平成21年度臨床研修歯科医症例報告会」の優秀賞3名(市川絢子、足立真吾、夫馬 恵)を発表し、柿澤水道橋病院長より受賞者に記念の楯を授与した。3名には更に、ノーベルバイオケア・ジャパン株式会社より優れた臨床研修歯科医



挨拶を述べる角田研修管理委員長:平成22年3月25日(木)、千葉校舎実習講義棟歯科臨床研修医室



修了証を授与する安藤市川総合病院長:平成22年3月23日(火)、市川総合病院第2・3会議室

に贈られる「ノーベルバイオケア・アワード」賞が授与され、修了式を閉式した。



水道橋病院歯科医師臨床研修修了者:平成22年3月26日(金)、水道橋校舎第1・2会議室

トピックス

■大学基準協会による大学評価(認証評価)認定

本学は、大学基準協会による平成21年度大学評価(認証評価)の結果、大学基準に適合している

と認定された。この評価結果は文部科学大臣に報告され、広く一般にも公表される。本学においては、平成9年度、平成15年度に続く、3度目の受

審となり、いずれも大学基準に適合しているとの評価を得ている。

平成21年1月、本学は大学基準協会に対して大学評価申請書を提出し、同年3月までに約1年をかけて纏めた点検・評価報告書、基礎データ調査他、必要とされる資料を提出した。その後、同年10月27日(火)の現地視察等を経て、平成22年3月12日(金)開催の大学基準協会評議員会および臨時理事会において慎重審議の結果、本学は大学基準に適合しているものと承認された。詳細については、平成22年3月12日付大基委大評第300号をもって通知され、「大学基準適合認定証」(平成22年4月1日付)が、納谷廣美大学基準協会会長より交付された。

総評の一部を抜粋すると『建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」に示されているように、歯科医学および歯科医療における人本主義を理念とし、大学としては「歯学に関する専門の学術を教授研究すると共に、豊かな教養と高い人格を備えた人材を育成し、もって人類の福祉に貢献する」ことを、大学院としては「歯学及び歯学に関連する学問の領域において、理論応用を教授かつ研究し、人類福祉の増進、延いては文化の進展に参与するとともに、優れた研究指導者及び歯科医学研究に精通した高度専門職業人としての歯科医師を養成する」ことを学則にうたっており、これらの目的は高等教育機関として適切である。また、学部・研究科いずれにおいても、建学の精神の基本理念に沿った方針を打ち出し、その方針に基づいた教育・研究を実践していることや、それらの

活動を支えるべく教育設備を適切に設置し、独自に開発・構築したシステムを整備して着実に成果に結びつけている。』とあり、本学の理念・目的、教育目標の達成への全学的な姿勢が高く評価されている。

なお、助言として改善を要する点もいくつか指摘されており、その趣旨に添った対応策を講じ、その改善実施の概況に関して「改善報告書」を取り纏め、平成25年7月末日までに大学基準協会会長宛に提出する予定である。

なお、本学に対する認定期間は平成22年4月1日より平成29年3月31日までの7年間である。また、ホームページ、大学案内、パンフレット等に、認定マークを使用することが許可されており、使用を希望する場合はあらかじめ企画・調査室に申請書を提出することとなっている。



「大学基準適合認定証」

学生会ニュース

■第115期卒業生謝恩会

第115期卒業生謝恩会は、平成22年3月25日(木)午後6時よりホテルニューオータニ幕張2階「鶴の間」において盛大に開催された。

司会の吉住 淳君と矢島由香さんの開会の辞により幕を開けた本会は、藤本 明謝恩会実行委員長の挨拶、熱田俊之助理事長、金子 譲学長、大山萬夫同窓会会長の祝辞、東郷幹雄父兄会会長の謝辞の後、東郷父兄会会長の発声により出席者一同が声高らかに乾杯し、歓談に入った。少しの間、歓談を楽しんだ後、金子学長よりデンツプラ

イ賞が麻生 徹君、石井名実子さんに手渡された。

続いて、6年間に115期生の修学指導を担当した学年・クラス主任並びに副主任の先生方に感謝の花束贈呈が代表学生より行われ、それに応えて、歴代の学年主任を務めた中村弘明先生、川口 充先生、矢島安朝先生からそれぞれ卒業生に向けて温かいエールが贈られた。

会の後半には、和田 健115期同窓会長より第115期生クラス会の名称が「創志会(そうしかい)」と発表された。

このクラス会名は、血闘イズムの精神で新しい

歯科界を創り、強い志を持つ歯科医師になろうという願いをこめて命名された。

学生と教職員が一体となって、大いに盛り上がった楽しいひと時はあっという間に過ぎ去り、115期生が同窓会の一員となったことを記念し、学年主任・副主任と卒業生全員が壇上へ上がって校歌を斉唱。最後はステージ上に集合した115期生全員の中から、代表で大平貴士君が来場してく



感謝の気持ちを込めて声高らかに校歌斉唱:平成22年3月25日(木)、ホテルニューオータニ幕張



謝恩会の締めくくり、笑顔で記念撮影:平成22年3月25日(木)、ホテルニューオータニ幕張

ださった方々に感謝の気持ちを述べ、午後8時に閉会となった。

■第115期卒業生から大学に卒業記念品贈呈

第115期生からの卒業記念品として、新水道橋校舎竣工時の備品費用として金 五拾萬円が大学に寄贈された。平成22年3月25日(木)、第115回卒業証書・学位記授与式終了後に行われた記念品贈呈式において、卒業生代表の藤本 明君から金子 譲学長に目録が手渡された。

■広報第239号のお詫び

広報第239号の記事の内容に次のとおり一部誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

38頁学生会ニュース欄に掲載した「**第5学年 高本愛子さん スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラムで準優勝**」の記事において誤表記がありました。関係者の皆様に謹んでお詫び申し上げます。

本件については、記事掲載を担当する学生課が、原稿校正の段階で記載内容を考慮せずに訂正したことにより発生したものです。

誤表記の詳細については、指導にあられた片倉 朗 准教授の所属を現在在籍している口腔健康臨床科学講座と表記してしまいましたが、指導にあられていた時期は、口腔外科学講座に在籍されており、研究の内容、統計データ取得等についても口腔外科学講座の全面的なご協力によりまとめられたものであります。

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

石井拓男、岡田真人 [ほか] 編「スタンダード社会歯科学 第4版」学建書院、2010

末石研二 編著「歯科衛生士のための矯正歯科治療」わかば出版、2010

井上 孝 著「歯科なるほどイロイロ学」デンタルダイヤモンド社、2010

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へご一

報くださいますようよろしくお願いいたします。

■外国雑誌の電子ジャーナル利用について(2010年)

本年も引き続き、次の大手出版社による電子ジャーナル(パッケージ等)が千葉、市川、水道橋の3キャンパスから利用可能となっている。

・SpringerLink

(<http://www.springerlink.com/home/main.mpx>)

Springerグループ出版社の電子ジャーナル約

1,900タイトルが閲覧可能（概ね1997年から現在まで）。Springer提供の雑誌のほぼ全てを網羅しており、医学分野に限らず教養系分野の雑誌も閲覧可能となっている。

・ Science Direct

(<http://www.sciencedirect.com/>)

Elsevier社の購読雑誌73タイトルが概ね2004年より電子ジャーナルで閲覧可能。更に、ヘルスサイエンス分野の657タイトル、神経科学分野126タイトルが概ね1995年以降閲覧可能。Cell PressのCellも1974年からアクセス可能となっている。

・ Wiley Inter Science

(<http://www3.interscience.wiley.com/cgi-bin/home>)

Wiley-Blackwell社の電子ジャーナルのうち、STM Collection（科学技術医学分野）767タイトルへアクセス可能。概ね1997年以降が閲覧可能。

・ Nature Publishing Group

(<http://www.nature.com/nature/index.html>)

Nature本誌、Nature姉妹誌4タイトルおよびAcademic Journal等、10タイトルについて概ね1997年以降、閲覧可能。

・ Annual Reviews

(<http://arjournals.annualreviews.org/>)

Annual Reviews 12タイトルが初号から最新まで閲覧可能。

・ 新規バックファイル

(<http://www.tdc.ac.jp/lib/jnl/#soja>)

JAMA & Archives電子ジャーナルバックファイル: American Medical Association (AMA) が提供するJAMAとArchivesシリーズ（10タイトル）のバックファイルについて創刊号よりアクセス可能となった。

この他に、歯科の雑誌をはじめとして個別タイトルの電子ジャーナルも多数閲覧可能となっている。上記パッケージも含めた2010年利用可能な電子ジャーナルは図書館ホームページ「電子ジャーナル」項の「当館所蔵フルテキスト

(A-to-Z)」より検索・アクセスできる。

■ 東京歯科大学学術機関リポジトリ 登録数1000件に

2008年2月に一般公開を開始した東京歯科大学学術機関リポジトリの登録コンテンツ数が2010年3月29日に、1000件に到達した。1000件目のコンテンツは口腔健康臨床科学講座の齋藤 淳先生の次の論文であった。

Learning climate in dental hygiene education: a longitudinal case study of a Japanese and Canadian programme.

<http://hdl.handle.net/10130/1215>

2009年度は、「歯科学報」等のページのオンラインジャーナル風への模様替えや、高山紀齋先生、血脇守之助先生の論文を多数スキャンした。

今後も、学術雑誌(海外・国内)に掲載された論文の原稿提供は、随時受け付けておりますので、引き続きご協力よろしく申し上げます。

〈大学史料室から〉

■ 図書館1Fロビーに史料の展示を開始

平成22年3月15日(月)より図書館1階ロビーにショーケースを一台設置し、来館者へ向けて貴重史料の展示を開始した。初回は創立者高山紀齋先生の著書「保歯新論(明治14年)」、「歯の養生(明治15年)」、「通俗 歯の養生法(明治22年)」の貴重書3点を展示した。今後もテーマを決め、東京歯科大学および歯科の史料を厳選して定期的に入れ替えを行い、史料の紹介に努めて行きたい。



ショーケースに展示中の「保歯新論」他の貴重図書：図書館1階ロビー

■収藏品紹介（16ミリフィルム）

この度、昭和7年職員慰労遠足会の様子を撮影した貴重な映像フィルムが史料室より発見された。遠足会は、昭和7年7月3日午前7時新宿駅に集合、血脇守之助校長を始め総勢148名が小田原急行に乗り込み箱根に向かった。〔歯科学報〕第37巻第8号(昭和7年8月1日)90～91頁 参照]



「東歯職員遠足会」の垂幕をつけた電車に乗る職員一行

歯科衛生士専門学校ニュース

■平成22年度一般入学試験実施

平成22年1月23日（土）東京歯科大学歯科衛生士専門学校の一般入学試験が実施され、学科試験（英語・国語）および面接試験が行われると共に、25日（月）には入試選考委員会が開催され、合否の結果が本人宛に郵送された。

本年度の志願者数は、高等学校長推薦51名（うち指定校推薦6名）、社会人特別選抜9名、一般入試22名の計82名で、昨年度と比較すると、それまでの減少傾向から増加に転じている。これは18歳人口の継続的な減少とそれともなう大学進学率の増加の傾向は変わらないものの、昨今の経済状況と就職難から、国家資格取得を目指す学生が増えていることが影響しているものと考えられた。今年度からは指定校推薦の制度を開始するとともに、昨年度に続き、一般入試の学科試験から数学を除き、英語・国語の2科目のみの試験を行っている。さらに、学校説明会の開催時期の前倒しや回数の増加、ホームページの刷新などを試みており、受験生の確保に何らかの貢献をしたものと思われる。

歯科衛生士専門学校にとって、厳しい情勢が続

くなかで、レベルの高い歯科衛生士教育を行うために必要である優秀な学生を継続的に確保するためには、今後も学校訪問の強化など、地道な努力が必要である。

■第19回歯科衛生士国家試験実施

平成22年3月7日（日）第19回歯科衛生士国家試験が全国10か所の試験場で一斉に実施された。

本校の卒業予定者45名全員が、東京試験場の明治大学駿河台キャンパス・リバティータワーにて受験した。試験は4肢択一および4肢択二のマークシート方式で行われ、午前100問（3時間）、午後100問（3時間）の計200問が出題され、午後4時に終了した。結果は3月25日（木）午後2時に厚生労働省ならびに歯科医療研修振興財団にて発表され、本校の受験者45名は全員合格した。全国の受験者総数5,929名のうち、合格者は5,761名で、合格率は97.2%であった。受験者数は昨年と比べて減少しているが、本年度の合格者数はほぼ同じで、新卒と既卒を含めた合格率が100%の学校は、全国の148校のうち86校（58.1%）であった。

■第59回卒業証書授与式

東京歯科大学歯科衛生士専門学校の第59回卒業証書授与式は、平成22年3月12日（金）午後1時より、千葉校舎講堂において厳粛な雰囲気の中で挙行された。

嶋村一郎教務部長の開式の宣言により始まり、国歌斉唱、眞木吉信副校長による学事報告

の後、下野正基校長から45名の59期卒業生ひとりひとりが緊張の面持ちで卒業証書を授与された。続く褒賞授与では、成績がもっとも優秀であった渡邊彩香さんに学校長賞が、沼口仁美さんを代表として、今井晴美、小松愛実、眞下侑香、渡邊恵莉さんに優等賞が授与された。さらに、3年間無遅刻・無欠席でよく勉学に励んだこ

とを讃え、今井晴美さんとともに、伊藤仁美、井原由樹子、植草詩織、岡村千晶、小松愛実、近藤秀美、中村由佳里、日野麻衣子、藤原祐花、吉森千明、渡邊彩香、渡邊恵莉さんに皆勤賞が、また、家田友香里さんをはじめ、秋葉 咲、檜原杏奈、中村亜希子、沼口 仁美、長谷川 愛、山崎和香、渡邊雅子さんに精勤賞が授与された。また、千葉県知事賞には渡邊彩香さん、社団法人日本歯科衛生士会学生部員会長表彰には沼口仁美さんが選ばれ、呼名を受けた。

そして、卒業生たちは、下野校長からの新たな



学校長賞を授与される渡邊彩香さん:平成22年3月12日(金)、千葉校舎講堂



式が終わってほっとする卒業生:平成22年3月12日(金)、千葉校舎講堂

旅だちに向けて、小さな努力を積み重ねることの大切さを込めた、心のこもった告辞に耳を傾けた。続いて、来賓としてご臨席頂いた熱田俊之助東京歯科大学理事長、金子 譲東京歯科大学学長、中井麗子東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会会長からご祝辞を頂いた。在校生代表の2年生、山本茉莉さんから送辞を受けた後、卒業生の代表として渡邊彩香さんが3年間の思いを込めて答辞を述べた。「衛生士学校校歌」と「蛍の光」を厳かに斉唱し、東京歯科大学歯科衛生士専門学校の第59回卒業証書授与式は終わり、卒業生たちは歯科界へと巣立っていった。

引き続き行われた記念品贈呈式では、中井同窓会長から代表の小船愛美さんに袱紗が手渡された。また、在校生の中橋由香里さんからフォトフレームと花が卒業生の滝澤彩実さんに贈られ、卒業生を代表して、鍋谷知里さんから後輩たちのためにエアータオルが学校へ贈呈された。最後に、3年間一緒に学んだ仲間と共に、恩師を囲んで卒業記念の集合写真撮影が行われ、59期卒業式のすべての行事が終了した。



卒業記念の集合写真:平成22年3月12日(金)、千葉校舎講堂

学事報告

東京歯科大学歯科衛生士専門学校
副校長 眞木 吉信

現在、本校に在籍する学生の数は、134名で、これに対し教授の任にあたる教員の数は、125名であります。

本日、第59回卒業証書授与式において卒業証書を授与される者は、45名であります。これを本校創立以来の卒業生に合わせますと、総数2,153名となります。

平成22年3月12日

告 辞

東京歯科大学歯科衛生士専門学校
校長 下野 正基

やわらかな陽の光が春の訪れを感じる今日の良き日に、東京歯科大学理事長、東京歯科大学学長、東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会長をはじめ、多数のご来賓をお迎えして、ここに第五十九回卒業証書授与式を挙行致しますことを、ご臨席の皆様とともに心からお慶び申し上げます。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。卒業証書を手にして、喜びと感動を新たにしていることでしょう。また、今日まで卒業生の皆さんを支えてこられた、ご両親はじめご家族の皆様、おめでとうございます。本校の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。

口腔保健の維持・増進の担い手である歯科衛生士となるために、大きな希望を抱いて本校に入学された皆さんは、東京歯科大学に併設されているという恵まれた環境のもとに、三年間にわたって、最新の歯科医学・医療に関する知識と技能の習得に努めてこられました。加えて、豊かな教養と知性を身につけ、素晴らしい友情を育んでこられました。本日ここに本校を巣立つことになりました。皆さんのこれまでの勉学の成果は、口腔ケアのプロとして活動する時の貴重な糧となり、そして歯科衛生士試験全員合格という輝かしい結果として表れることでしょう。

高齢社会を迎えた今、健康の保持、増進についての国民の関心はきわめて高くなってきており、これに対応した歯科保健・医療の充実が求められています。本校の三年間の課程を終えた皆さんは、このような社会の要請に応えることのできる、医療人としての資質を十分に修得されているはずです。それでも、日々進歩する歯科保健・医療の分野で活躍するためには、常に新たな知識の獲得と技能の向上に努めることが大切です。医療に携わる者の心構えとして生涯、自分自身の資質向上に努めて頂きたいと思えます。

「なんでこんなに一段一段なんだろう」。先日のバンクーバー・オリンピックで惜しくもメダルに手が届かなかった上村愛子選手の言葉です。彼女は長野、ソルトレーク、トリノ、バンクーバー、と四回もオリンピックに出場し、七位、六位、五位、四位と着実に順位をあげてきました。その精進と努力にはただただ頭が下がるばかりですが、同時に上村選手の言葉は、「人生に近道はない」ということを、小さな努力を黙々と積み重ねていくことの大切さを教えてくれています。

皆さんはそれぞれ四月から、新しい職場で、社会人としての第一歩を踏み出すこととなりますが、「人生に近道はないということ」を忘れず、一日一日を大切に、健康で心豊かな人生という階段を一段一段上がって行ってください。そして、歯科衛生士として医療・保健・福祉の場で大いに活躍されることを心よりお祈りして、告辞といたします。

平成22年度 第1学年時間割表

		Aクラス					Bクラス					
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
前期	9:00 ~ 10:25	1	一般化学Ⅰ 歯科医学概論 (歯科医学史) コミュニケーション割	基礎物理Ⅰ β 基礎化学Ⅰ	基礎生物Ⅰ 一般生物Ⅰ	独 語	一般化学Ⅰ 歯科医学概論 (歯科医学史) コミュニケーション割	基礎物理Ⅰ β 基礎化学Ⅰ	基礎生物Ⅰ 一般生物Ⅰ	英語Ⅲ		
	10:35 ~ 12:00	2	医療法学	健康学・ コミュニケーション割	自然科学 演習Ⅰ	自然科学 演習Ⅰ	英語Ⅲ	自然科学 演習Ⅰ	健康学・ コミュニケーション割	心理学	独 語	英語Ⅰ
	13:00 ~ 14:25	3	数学Ⅰ	社会福祉	心理学	基礎物理Ⅰ a 一般物理Ⅰ	英語Ⅱ	医療法学	数学Ⅰ	英語Ⅱ	基礎物理Ⅰ a 一般物理Ⅰ	独 語
	14:35 ~ 16:00	4	経済学 社会学 哲学	体 育	独 語	情報科学	英語Ⅰ	経済学 社会学 哲学	社会福祉	自然科学 演習Ⅰ	情報科学	体 育
	16:10 ~ 17:30	5				教 養 セミナー					教 養 セミナー	
後期	9:00 ~ 10:25	1	基礎物理Ⅱ β 基礎化学Ⅱ	基礎物理Ⅱ a 一般物理Ⅱ	人 間 生物学	独 語	生物Ⅱ	基礎物理Ⅱ β 基礎化学Ⅱ	基礎物理Ⅱ a 一般物理Ⅱ	人 間 生物学	英語Ⅲ	生物Ⅱ
	10:35 ~ 12:00	2	歯科基礎 数 学	英語Ⅱ	心理学	英語Ⅲ	英語Ⅰ	英語Ⅰ	独 語	独 語	生 命 倫 理	人類学
	13:00 ~ 14:25	3	数学Ⅰ	独 語	理科実習	生 命 倫 理	人類学	歯科基礎 数 学	美 術	心理学	英語Ⅱ	理科実習
	14:35 ~ 16:00	4	一般化学Ⅱ	美 術		生物の 構造と機能	体 育	一般化学Ⅱ	数学Ⅰ	体 育	生物の 構造と機能	
	16:10 ~ 17:30	5		教 養 セミナー		自然科学 演習Ⅱ			教 養 セミナー		自然科学 演習Ⅱ	

平成22年度 第2・3・4・5学年時間割表

		第2学年					第3学年					第4学年					第5学年				
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
前期	9:00 ~ 10:25	1	生理学 基礎化学 歯科	口腔解剖 A 医療統計 B 科学英語	A 解剖実習 B 生命現象と物質実習	B 生命現象と物質実習	口 微	A 微生物実習 B 生理実習	発生病態学 有床義歯 補綴学	歯 内	口 病Ⅰ	歯科矯正実習	歯 周	クラウン ブリッジ補綴学	小 児 歯 科 実 習	補綴学 有床義歯	臨床実習	課題講義・臨床複合講義	課題講義		
	10:35 ~ 12:00	2	生物 細胞分子	B 歯科医学英語 A 科学英語	口腔解剖 生物の科学	保存修復	衛 生	A 微生物実習 B 生理実習	有床義歯 補綴学	病 理 実 習	薬 理 実 習	矯 正 歯 麻 内 科	口 外	社 歯 科	小 歯 科	局 部 義 歯 実 習					
	13:00 ~ 14:25	3	生物 細胞分子	口腔解剖 生物の構造 と機能	解 剖	A 生命現象と物質実習 B 解剖実習	衛 生	病 理	歯 科 理 工 実 習	生 化 学 実 習	生 化 学 実 習	矯 正 歯 麻 内 科	口 衛 実 習 ・ 口 衛 科	口 外	小 歯 科	局 部 義 歯 実 習					
	14:35 ~ 16:00	4	A 歯科医学英語 B 医療統計	組 織	解 剖	A 生命現象と物質実習 B 解剖実習	薬 理	A 生理実習 B 微生物実習	歯 科 理 工 実 習	生 化 学 実 習	生 化 学 実 習	矯 正 歯 麻 内 科	口 衛 実 習 ・ 口 衛 科	隣 接 医 学	倫 理 ・ 医 療 安 全 法 規 制	オーラルメデイスン・ 歯科医療管理学医療 倫理・医療安全法規制				局 部 義 歯 実 習	
	16:10 ~ 17:30	5	コミュニケーション学Ⅱ	コミュニケーション学Ⅱ	コミュニケーション学Ⅱ	英語講読 歯科医学	英語講読 歯科医学	歯 科 理 工 実 習	歯 科 理 工 実 習	歯 科 理 工 実 習	歯 科 理 工 実 習	矯 正 歯 麻 内 科	口 衛 実 習 ・ 口 衛 科	隣 接 医 学	倫 理 ・ 医 療 安 全 法 規 制	オーラルメデイスン・ 歯科医療管理学医療 倫理・医療安全法規制				局 部 義 歯 実 習	
後期	9:00 ~ 10:25	1	口腔生理 歯科臨床概論・ コミュニケーション学Ⅱ	A 解剖実習 B 組織実習	病 理	微 生 物	保 存 修 復	小 歯 科	補綴学 有床義歯	歯 科 補 綴 学 総 論	衛 生 ・ 口 衛	医 療 保 険	ブレ・クリニカル概論	口 外	課 題 講 義	臨床実習	課題講義	臨床複合講義			
	10:35 ~ 12:00	2	生 理	口腔組織・口腔組織実習	歯 科 薬 理 工 学	保 存 修 復	口 病Ⅱ	矯 正 歯 内	歯 科 補 綴 学 総 論	衛 生 ・ 口 衛	医 療 保 険	クラウンブリッジ補綴学	口 外	課 題 講 義							
	13:00 ~ 14:25	3	生 化 学	解 剖	歯 科 薬 理 工 学	保 存 修 復	口 病Ⅱ	矯 正 歯 内	補綴学 有床義歯	衛 生 ・ 口 衛	医 療 保 険	クラウンブリッジ補綴学	口 外	課 題 講 義							
	14:35 ~ 16:00	4	薬 理	A 組織実習 B 解剖実習	歯 科 薬 理 工 学	保 存 修 復	口 病Ⅱ	矯 正 歯 内	補綴学 有床義歯	衛 生 ・ 口 衛	医 療 保 険	隣 接 医 学	口 外 実 習 ・ 口 外 実 習	課 題 講 義							
	16:10 ~ 17:30	5	微 生 物	微生物	歯 科 薬 理 工 学	保 存 修 復	口 病Ⅱ	矯 正 歯 内	補綴学 有床義歯	衛 生 ・ 口 衛	医 療 保 険	隣 接 医 学	口 外 実 習 ・ 口 外 実 習	課 題 講 義							

平成22年度学生数一覧

平成22年4月1日現在

学 年	男	女	計	班 分 け	欠 番	休学者
1年	A	40	25	65	1A : No.1~65 1B : No.71~135	66~70
	B	37	28	65		
		77	53	130		
2年	93	51	144	A班 : No.1~72 B班 : No.73~144		
3年	82	53	135	A班 : No.1~68 B班 : No.69~135		
4年	76	51	127	A班 : No.1~64 B班 : No.65~127		
5年	87	53	140	A班 : No.1~28 B班 : No.33~60 C班 : No.65~92 D班 : No.97~124 E班 : No.129~156	29~32 61~64 93~96 125~128	101、140
6年	93	55	148		40、62、77、78、 79、80、98、120、129、 137、139	
合 計	508	316	824			

平成22年度 学年暦

年月日	曜	行 事 予 定
平成22年 4月 1日	木	5年生オリエンテーション・登院器材刻印・検査
		5年生登院式
	5日 月	入学式
	6日 火	新入生オリエンテーション・学内見学
		2・3・4年生オリエンテーション
	7日 水	1・2・3・4年生前期授業開始
	14日 水	} 新入生学外セミナー
	16日 金	
	30日 金	
	5月 8日 土	120周年記念学術講演会・東歯学会(9日(日)まで)
	22日 土	120周年記念式典・祝賀会
	6月 4日 金	6年生第1回総合学力試験(5日(土)まで)
	10日 木	1年生健康診断(予定)
	18日 金	実験動物供養祭(千葉校舎)(3年生)
	7月11日 日	夏期休暇 開始
	8月31日 火	夏期休暇 終了
	9月 1日 水	1・2・3・4年生授業再開
		振替授業(火曜日分)
		6年生第2回総合学力試験(2日(木)まで)
	4日 土	5年生第1回総合学力試験
	13日 月	1・2・3・4年生前期授業終了
	16日 木	1・3・4年生前期定期試験(28日(火)まで)
	17日 金	2年生前期定期試験(27日(月)まで)
	28日 火	解剖慰霊祭(水道橋校舎)(2年生)
	10月 1日 金	1・2・3・4年生後期授業開始
	25日 月	6年生第3回総合学力試験(26日(火)まで)
	28日 木	振替授業(月曜日分)
	29日 金	} 第42回東歯祭(準備・後片付けを含む)(予定)
	31日 日	
	11月 1日 月	
	13日 土	推薦入学選考・帰国子女・留学生特別選抜、 学士編入学試験(予定)
	12月20日 月	} 1・2・3・4年生前期追・再試験
	24日 金	
	25日 土	} 冬期休暇
平成23年 1月 7日 木		
	6日 木	6年生第4回総合学力試験(7日(金)まで)
	11日 火	1・2・3・4年生授業再開
	15日 土	大学入試センター試験(16日(日)まで)(予定)
	31日 月	1・2・3・4年生後期授業終了
	2月 2日 水	一般入学試験(I期)、センター利用入試(I期)(予定)
	7日 月	1・2・3・4年生後期定期試験(14日(月)まで)
	12日 土	本学創立記念日
	15日 火	4年生総合学力試験
	16日 水	2年生総合学力試験
	17日 木	3年生総合学力試験
	18日 金	4年生共用試験(CBT)
	19日 土	5年生第2回総合学力試験
	21日 月	1年生総合学力試験(本試験)
	27日 日	4年生共用試験(OSCE)(前日26日テストラン)
	3月 1日 火	} 1・2・3・4年生後期追・再試験
	4日 金	
	5日 土	5年生総合学力追・再試験
	7日 月	3・4年生総合学力追・再試験
	8日 火	1・2年生総合学力追・再試験
	10日 木	4年生共用試験(CBT)追・再試験
	12日 土	一般入学試験(II期)、センター利用入試(II期)、編入学試験(予定)
	25日 金	第116回卒業式

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

- 太陽歯科衛生士専門学校(学生81名、教員3名)
平成22年2月3日(水)口腔衛生学基礎実習
- 埼玉県立常盤高等学校(学生79名、教員4名)
平成22年2月4日(木)解剖標本室、解剖実習室見学
- 藤リハビリテーション学院(学生55名、教員4名)
平成22年2月8日(月)から9日(火)まで 解剖学見学
平成22年2月22日(月)から26日(金)まで 解剖実習見学
- 八千代リハビリテーション学院(学生158名、職員22名)
平成22年2月15日(月)から18日(木)まで 解剖実習見学
- 静岡県立大学短期大学部(学生42名、教員2名)
平成22年3月1日(月)解剖学講義受講、病院見学
- 国際医療福祉専門学校(学生37名、教員4名)
平成22年3月2日(火)から4日(木)まで 解剖実習見学
- 千葉医療福祉専門学校(学生59名、教員8名)
平成22年3月23日(火)から26日(金)まで 解剖実習見学

市川総合病院

- 佐伯栄養専門学校(学生11名)
平成22年3月4日(木)、および25日(木)病院見学
- 寿泉堂総合病院(職員4名)
平成22年3月25日(木)病院見学

■海外出張

- 末石研二教授、野嶋邦彦講師(歯科矯正)
7th International Orthodontic Congressに参加、および発表のため、末石教授は平成22年2月4日(木)から11日(木)まで、野嶋講師は2月3日(水)から12日(金)まで、オーストラリア・シドニーへ出張。
- 篠崎尚史講師・センター長(角膜センター)
第3回WHO臓器移植会議へ出席のため、平成22年2月9日(火)から13日(土)まで、スイス・ジュネーブへ出張。

- 武井 泉教授(市病・内科、糖尿病・内分泌センター)
国際臨床化学会・HbA1c標準化委員会へ出席のため、平成22年2月10日(水)から18日(木)まで、南アフリカ共和国・ケープタウンへ出張。
- 井上 孝教授(臨床検査)
インド歯科医学会での講演、およびFDI教育会議出席、フィンランド・プランメカ社歯科教育シミュレーションシステム視察、トロント大学歯学部との提携についての調査と会合のため、平成22年2月11日(木)から22日(月)まで、インド・マドラス、スイス・ジュネーブ、フィンランド・ヘルシンキ、カナダ・トロントへ出張。
- 新谷益朗准教授(口腔科学研究センター)
カロリンスカ研究所、およびフロリダ大学、テキサス大学ヒューストン校との姉妹校関係の確認のための会合、およびプランメカ社歯科教育シミュレーションシステム視察、トゥルク大学、およびDublin Dental School and Hospital、Cork University Dental Schoolの視察、American Dental Education Associationへ参加、ワシントン大学研究所訪問のため、平成22年2月14日(日)から3月10日(水)まで、スウェーデン・ストックホルム、フィンランド・ヘルシンキ・トゥルク、アイルランド・ダブリン・コーク、アメリカ・バルティモア・ワシントンD.C.・ヒューストン・シアトルへ出張。
- 穴澤卯圭講師(市病・整形外科)
8th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society Meetingで発表のため、平成22年2月23日(火)から27日(土)まで、フィリピン・セブへ出張。
- 須賀賢一郎講師、渡邊 章助教(口腔外科)
AOCMF Educational Symposiumに参加のため、およびハノーファー大学、テュービンゲン大学・顎顔面外科教室の視察のため、平成22年2月24日(水)から3月4日(木)まで、ドイツ・ハノーファー・テュービンゲンへ出張。
- 亀山敦史講師(総合診療科)
生体硬組織・材料ナノインターフェイスの解析を目的として、平成22年3月1日(月)からベル

ギー・ルーベンへ出張。帰国は平成23年2月28日の予定。

○篠崎尚史講師・センター長(角膜センター)
WHOコーディング化導入検討会議、およびISBT128 advisory group for eye banking会議に出席のため、平成22年3月1日(月)から8日(月)まで、アメリカ・ニューヨークへ出張。

○石田 暁講師(摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科)
18th Annual Meeting of Dysphagia Research Societyに参加、および発表のため、平成22年3月2日(火)から7日(日)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張。

○澁川義宏准教授(歯周病)
39th Annual Meeting of the American Association for Dental Researchで発表のため、およびトーマスジェファーソン大学整形外科との研究打合せのため、平成22年3月3日(水)から11日(木)まで、アメリカ・ワシントンD.C.・フィラデルフィアへ出張。

○山田将博助教(有床義歯補綴)
Academy of Osseointegrationで発表のため、およびUCLAでの研究会議参加のため、平成22年3月4日(木)から10日(水)まで、アメリカ・フロリダ・ロサンゼルスへ出張。

○山根源之教授、外木守雄准教授(市病・オーラルメディスン・口腔外科)
台湾口腔顎面外科学会にて招待講演のため、平成22年3月12日(金)から15日(月)まで、台湾・台南市へ出張。

○櫻井 薫教授(有床義歯補綴)
UCLA顎顔面補綴センター視察のため、平成22

年3月18日(木)から22日(月)まで、アメリカ・ロサンゼルスへ出張。

○小坂橋俊哉教授、桐野清夏臨床専修医、井上敬臨床専修医(市病・麻酔科)
International Anesthesia Research Society 2010 Annual Meetingに参加、および発表のため、小坂橋教授、井上臨床専修医は平成22年3月19日(金)から24日(水)まで、桐野臨床専修医は23日(火)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

○眞木吉信教授、古賀 寛助教(衛生)
ラオス食塩フッ化物添加事業国際共同研究のため、眞木教授は平成22年3月21日(日)から、古賀助教は3月20日(土)から、それぞれ25日(木)まで、ラオス・ビエンチャンへ出張。

○篠崎尚史講師・センター長(角膜センター)
WHO国際会議、および移植医療に関するマドリッド会議に出席のため、平成22年3月22日(月)から26日(金)まで、スペイン・マドリッドへ出張。

○中川寛一教授、森永一喜講師、末原正崇講師、藤井理絵助教、山口透子大学院生、間 奈津子大学院生、浅井知宏大学院生、呉 明憲大学院生、堀内 章大学院生(歯科保存)
第8回日韓合同歯内療法学会に参加、および発表のため、平成22年3月26日(金)から29日(月)まで、韓国・釜山へ出張。

○石上恵一教授(スポーツ歯科)
韓国スポーツ歯科医学会との学術交流締結に関する打合せ会議に出席のため、平成22年3月26日(金)から31日(水)まで、韓国・ソウルへ出張。

大学日誌

平成22年2月

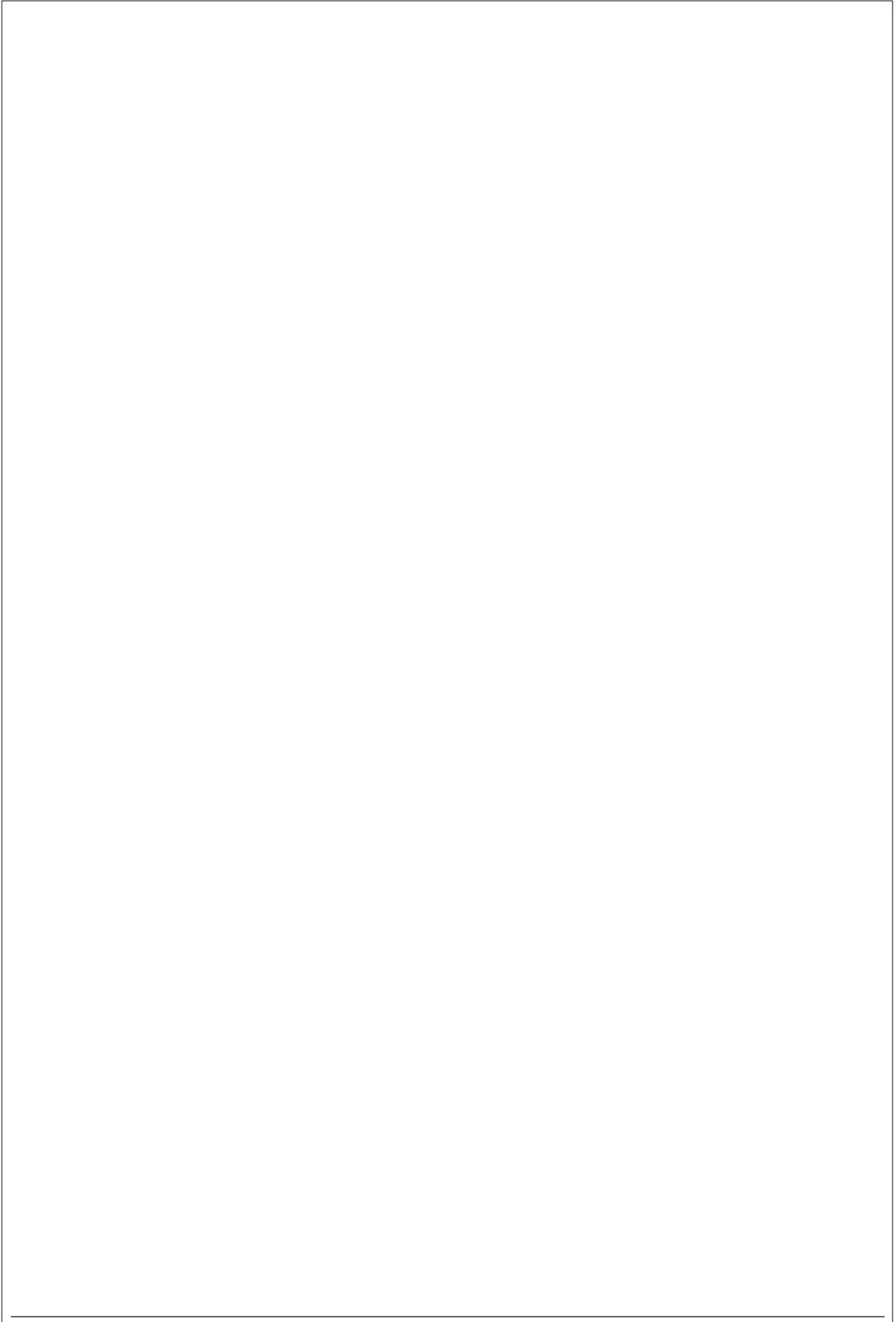
- 1 (月) プログラム責任者・副責任者会議
省エネルギーの日
防災安全自主点検日
会計監査(1～5日)(市病)
- 2 (火) 一般入学試験(I期)・大学入試センター利用試験(I期)
栄養委員会(市病)
- 3 (水) リスクマネジメント部会

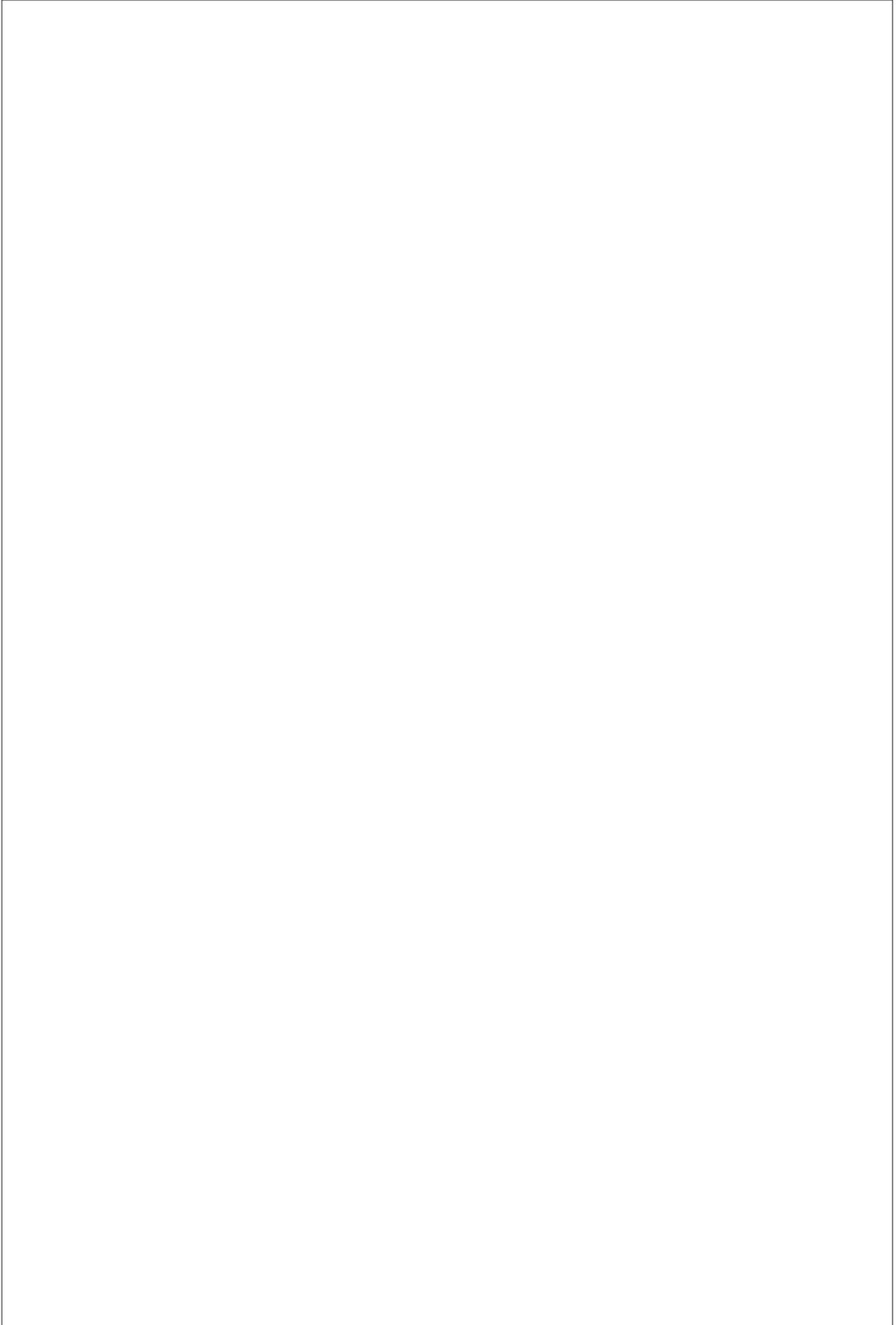
- 3 (水) ICT会議
千葉校舎課長会
教務部(課)事務連絡会
化学物質による作業環境・安全衛生に関する講演会(健康管理実施部会)(市病)
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 4 (木) 院内感染症予防対策委員会(市病)
医療安全管理委員会(市病)

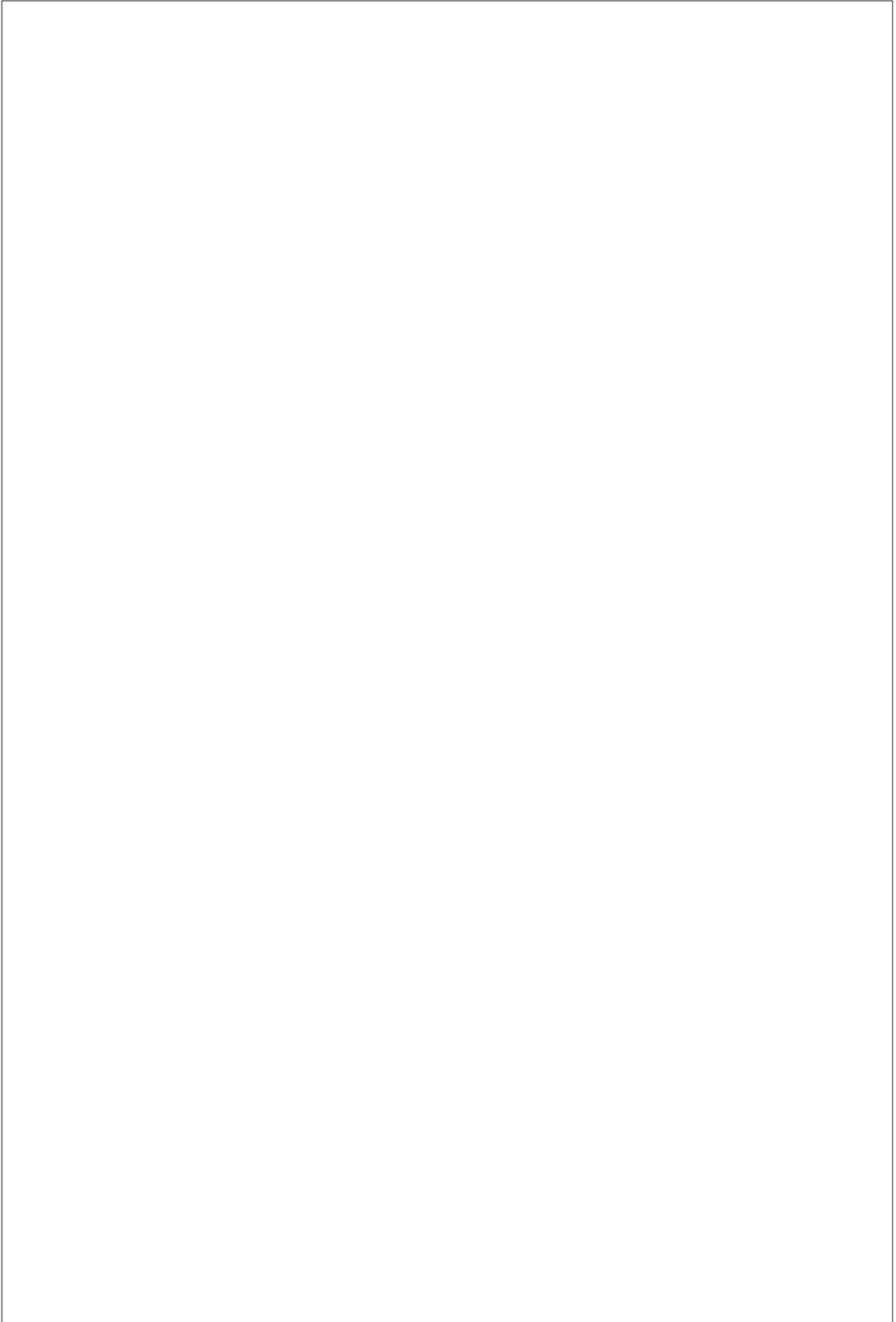
- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| 4 (木) | ホームページ作業部会(水病) | 16 (火) | 手術室運営委員会(市病) |
| 5 (金) | 講座主任教授会(臨時)
一般入学試験(Ⅰ期)合格発表
感染予防指導チーム委員会(水病) | 17 (水) | 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
2年生総合学力試験
師長研修会(市病)
CPC (市病) |
| 6 (土) | 4年生後期定期試験(～15日)
第103回歯科医師国家試験(～7日) | 18 (木) | 業務連絡会
高度・先進医療委員会
4年生共用試験(CBT)
部長会(市病)
市川市医師会・歯科医師会員との合同懇談会(市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病) |
| 8 (月) | 総合講義検討委員会
病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
医療安全研修会
1～3年生後期定期試験(～16日)
公認会計士監査(～10日)(水病) | 19 (金) | 3年生総合学力試験
ICT委員会(市病)
理事会(法人) |
| 9 (火) | 臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
大学入試センター利用試験(Ⅰ期)合格発表
歯科衛生士専門学校教員会(教授会・人事委員会終了後)
歯科衛生士専門学校1年生後期授業終了 | 20 (土) | 5年生第2回総合学力試験
大学院入学試験(Ⅱ期)
ピアノコンサート(市病) |
| 10 (水) | 大学院事務連絡会
予算委員会
大学院入学試験(Ⅱ期)願書締切
ICU運営委員会(市病)
業務改善委員会(市病)
救急委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会・医薬品安全管理委員会(水病) | 22 (月) | 第91回歯科医学教育セミナー
1年生総合学力試験
機器等安全自主点検日
電子カルテシステム運用管理委員会(診療録管理委員会)(市病)
NST会議(市病)
教職員研修会(水病) |
| 15 (月) | 医療連携委員会
医療サービスに関する検討会
環境清掃日・危険物・危険薬品廃棄処理日
歯科衛生士専門学校1・2年生後期試験(～24日)
平成21年度臨床研修歯科医症例報告会(水病) | 23 (火) | 学生部(課)事務連絡会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
教育WS「基礎科目」作業部会
一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用試験(Ⅱ期)・編入学試験願書受付開始(～3/9)
大学院入学試験(Ⅱ期)選考委員会 |
| 16 (火) | 教養科目協議会
4年生総合学力試験
院内褥瘡対策委員会(市病) | 24 (水) | 健康管理センター会議
5年生試験結果発表
看護部運営会議(市病)
病院連絡協議会・診療録管理委員会(水病) |

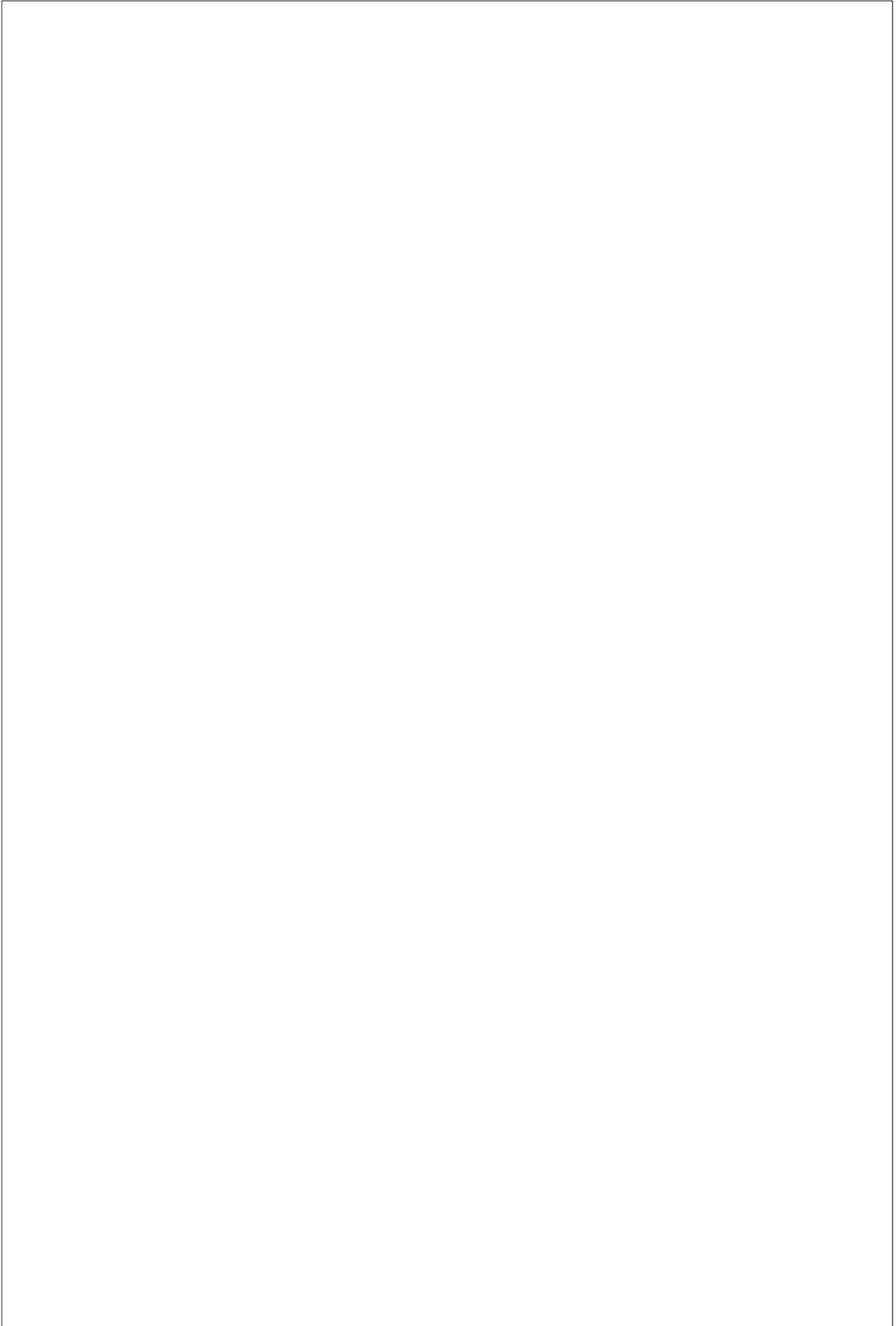
25 (木)	1・2年生試験結果発表 千葉校舎課長会 3・4年生試験結果発表 管理診療委員会(市病)	8 (月)	医局長会 3・4年生総合学力追・再試験
26 (金)	大学院入学試験(Ⅱ期)合格発表 災害対策実施部会(市病) クリニカルパス委員会(市病) 社保委員会(水病)	9 (火)	1・2年生総合学力追・再試験 一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用試験(Ⅱ期)・編入学試験願書受付締切 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
27 (土)	4年生共用試験(OSCE)テストラン	10 (水)	基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 看護部運営会議(市病) 業務改善委員会(市病) 救急委員会(市病) リスクマネージメント部会(水病) 医療機器安全管理委員会(水病) 薬事委員会(水病)
28 (日)	4年生共用試験(OSCE)	11 (木)	業務連絡会 医療安全研修会 4年生共用試験(CBT)追・再試験 医療安全管理委員会(市病) 手術室運営委員会(市病) ホームページ作業部会(水病)
平成22年3月			
1 (月)	プログラム責任者・副責任者会議 省エネルギーの日・防災安全自主点検日 薬事委員会(市病) 手術室管理委員会(水病) 臨床研修作業部会(水病)	12 (金)	第59回歯科衛生士専門学校卒業証書授与式
2 (火)	教務部(課)事務連絡会 1～4年生後期追・再試験(～5日)	13 (土)	一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用試験(Ⅱ期)・編入学試験[於:水道橋校舎]
3 (水)	リスクマネージメント部会 ICT会議 輸血療法委員会 臨床検査部運営委員会 千葉校舎課長会 第4回競争的資金不正防止推進室打合せ 市病フォーラム実行委員会(市病) 口腔健康臨床科学講座会(水病)	15 (月)	医療連携委員会 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日
4 (木)	科学研究費システム導入説明会(～5日) 院内感染症予防対策委員会(市病) 治験審査委員会・倫理委員会(市病) 平成21年度第2回水道橋病院研修管理委員会(水病)	16 (火)	臨床教授連絡会 講座主任教授会 全体教授会(臨時) 人事委員会 一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用試験(Ⅱ期)・編入学試験合格発表 歯科衛生士専門学校教員会 院内褥瘡対策委員会(市病) 第8回創立120周年記念事業実行委員会
5 (金)	大学院事務連絡会 平成21年度口腔科学研究センターワークショップ[血協記念ホール※テレビ会議] 感染予防指導チーム委員会(水病)	17 (水)	研究費システム導入説明会(～8日) 情報システム管理委員会 臨床検査運営委員会(市病) CPC(市病)
6 (土)	研修管理委員会 5年生総合学力追・再試験	18 (木)	千葉校舎課長会
8 (月)	病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 臨床教育委員会		

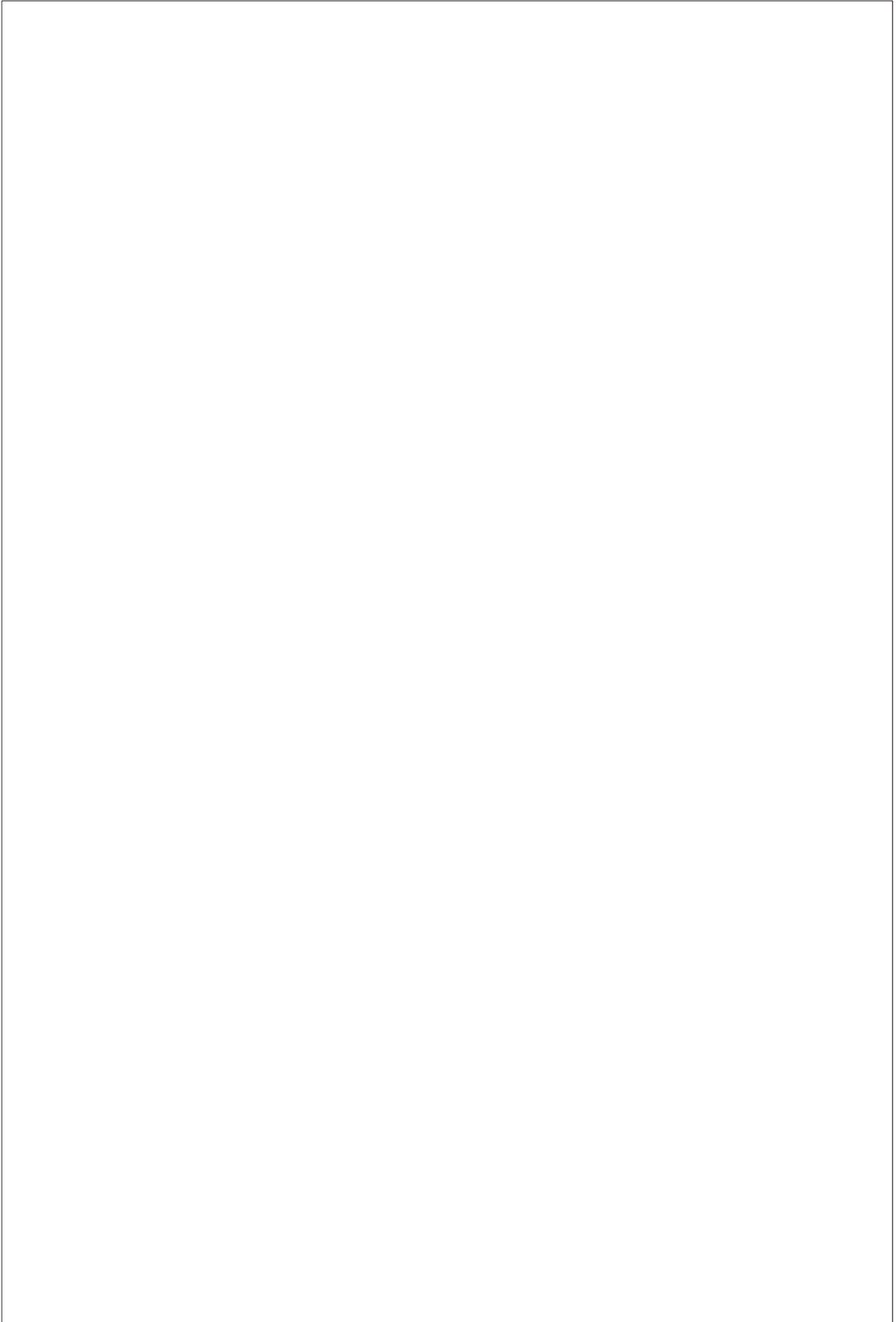
- | | |
|--|---|
| <p>18 (木) 高度・先進医療委員会
部長会(市病)
教職員研修会(水病)</p> <p>19 (金) 防災訓練
ICT委員会(市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病)</p> <p>23 (火) 第4回補助金管理運営会議
平成21年度第3回自己点検・評価委員会
健康管理委員会
講座主任教授会(臨時)
人事委員会
教養科目協議会
機器等安全自主点検日</p> <p>24 (水) 第115回卒業証書授与式予行演習
学生部(課)事務連絡会
図書委員会
病院連絡協議会(水病)
看護部運営会議(市病)
病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病)</p> <p>25 (木) 第115回卒業証書授与式</p> | <p>25 (木) 歯科臨床研修修了式
管理診療委員会(市病)</p> <p>26 (金) 平成22年度新採用者内定者研修(～
3/31看護部)(市病)
クリニカルパス委員会(市病)
歯科医師臨床研修修了式(水病)
社保委員会(水病)</p> <p>27 (土) 市病フォーラム公開講演会(市病)</p> <p>29 (月) 給食委員会
電子カルテシステム運用管理委員会(市病)
NST会議(市病)
第103回歯科医師国家試験合格発表(水病)
教職員研修会(水病)</p> <p>30 (火) 薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
第92回歯科医学教育セミナー
第303回大学院セミナー</p> <p>31 (水) 退職者(本務教職員・レジデント)辞令交付
(水病)
専修科生修了証交付(水病)
理事会(法人)
評議員会(法人)</p> |
|--|---|

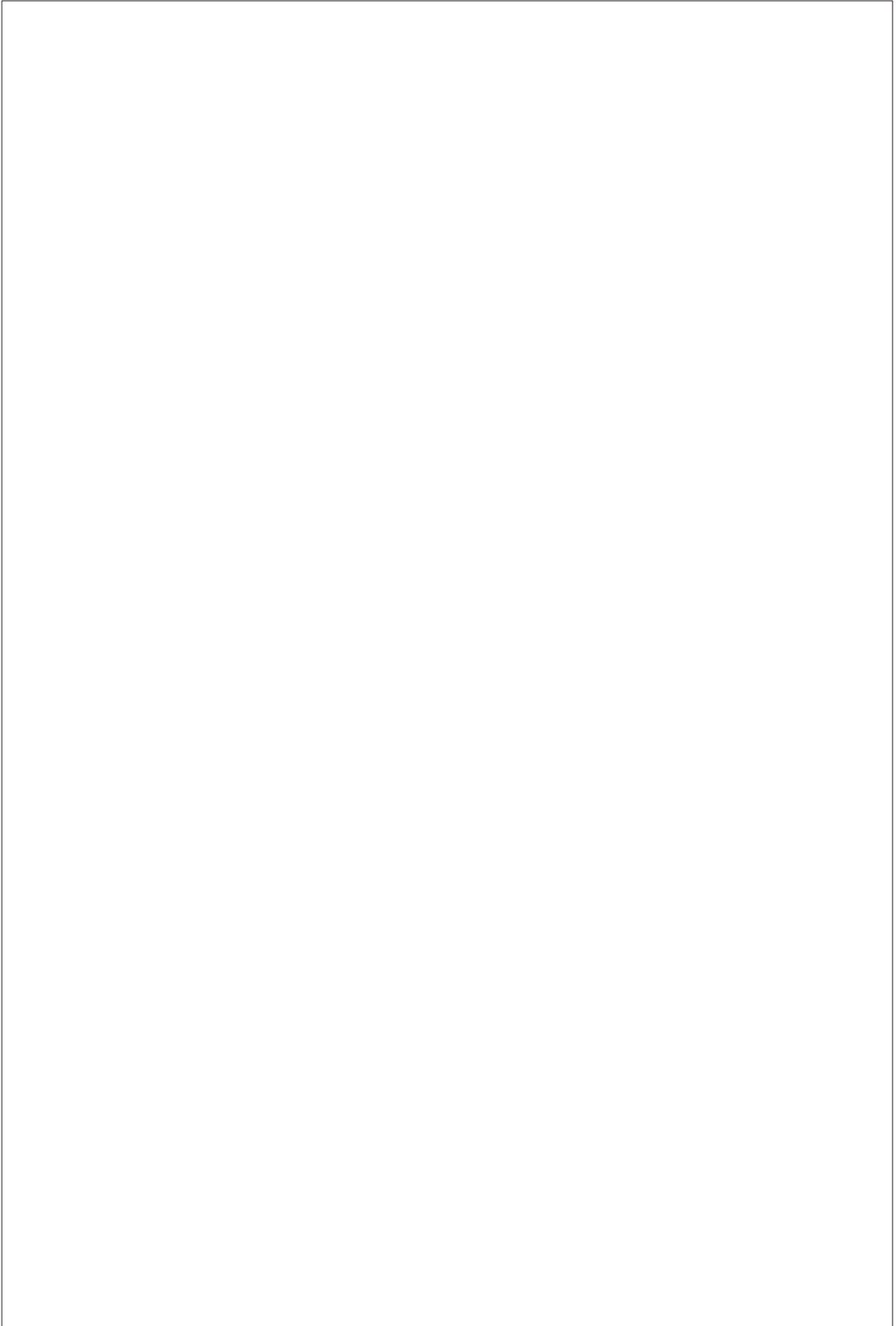


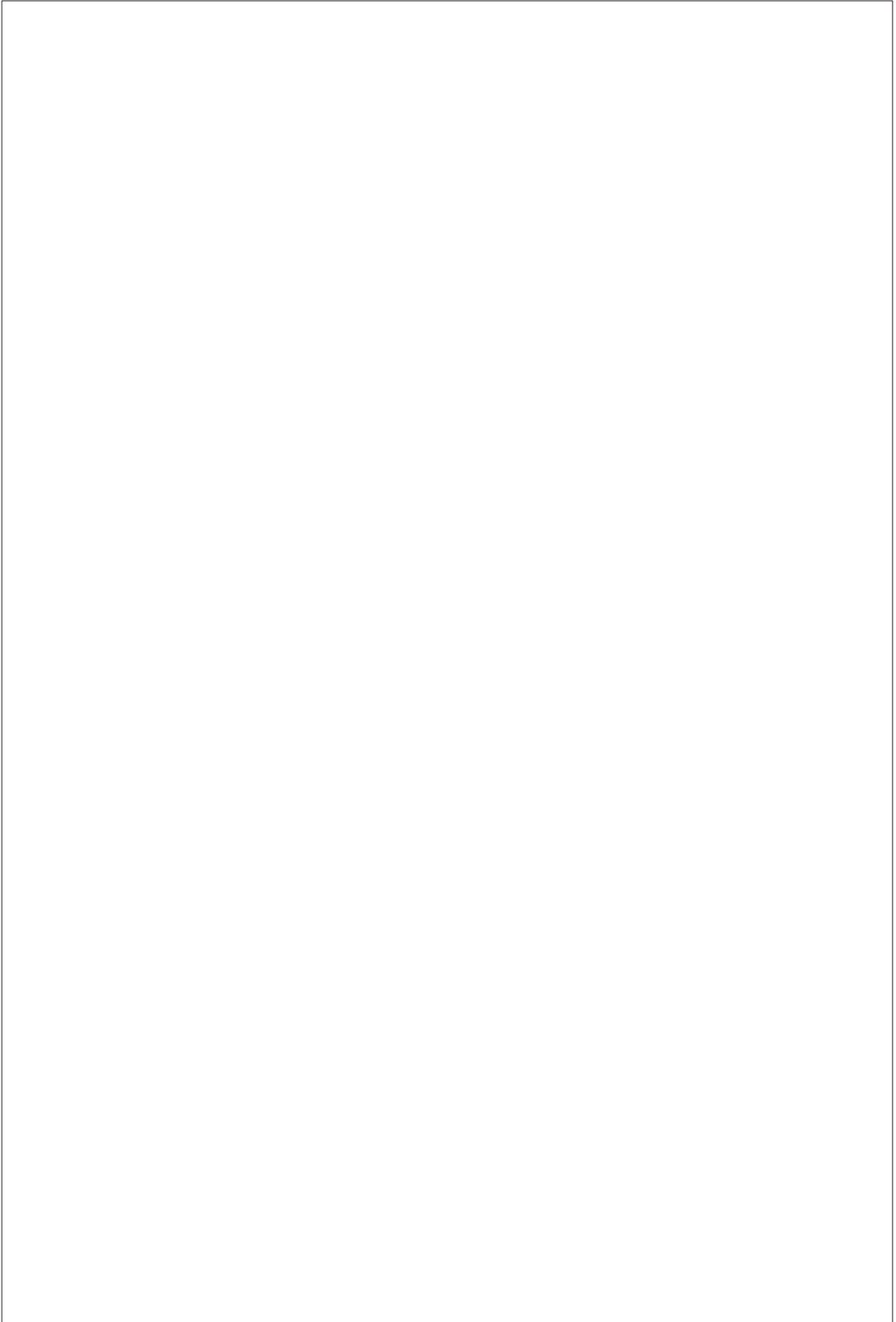


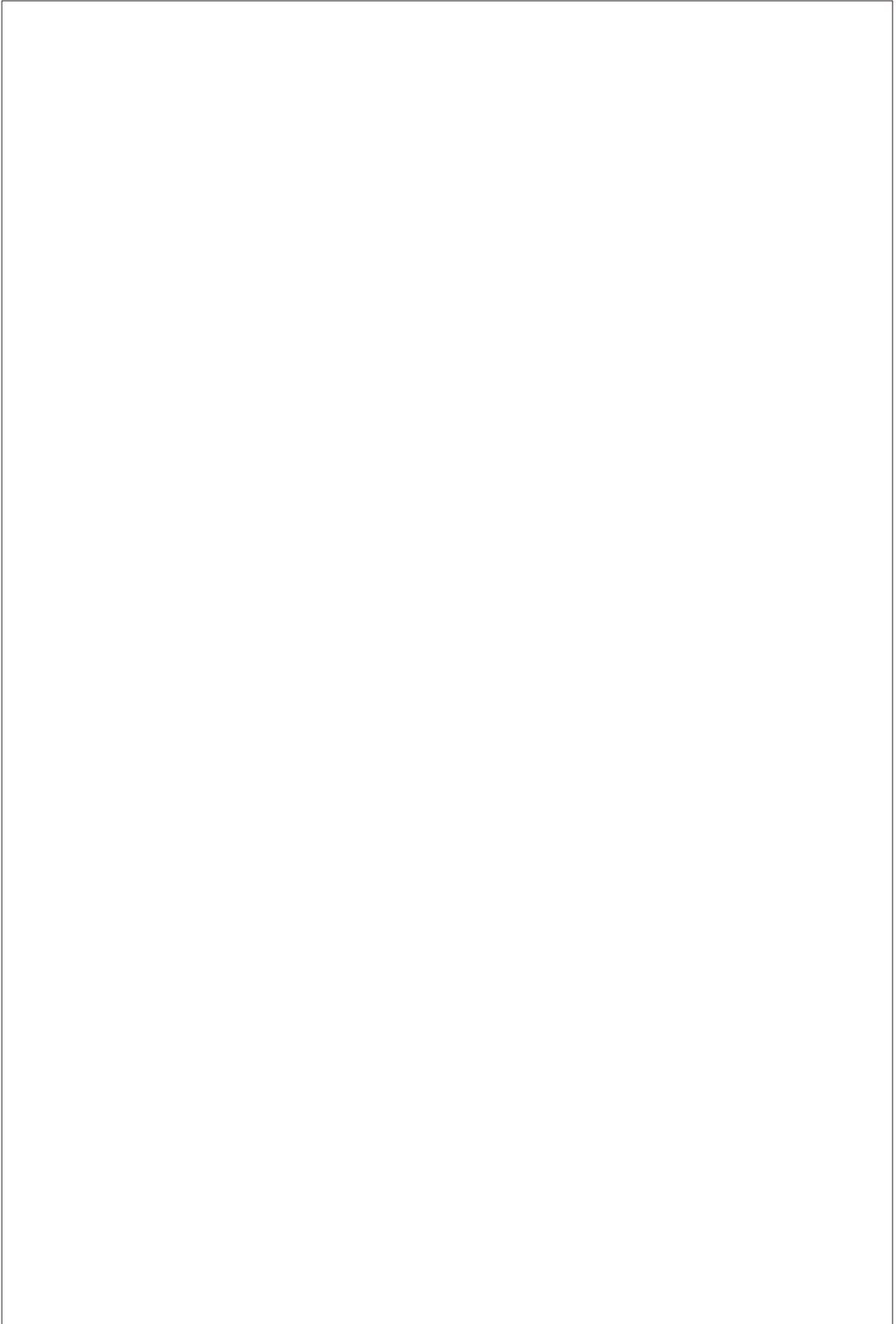












東京歯科大学広報 編集委員

内山健志（委員長）

井上直記 江波戸達也 王子田 啓 狩野龍二 金安純一 河田英司 坂本智子 椎名 裕 柴家嘉明
新谷益朗 田口達夫 日塔慶吉 野島靖彦 橋本貞充 前田健一郎 米津博文（平成22年3月現在）

編集後記

「学問・芸術は遙けし、人生は短し」を意味するヒポクラテスの箴言は、ラテン語では“*Als longa, vita brevis*”に、さらに英語では“*Art is long, life is short*”と訳されています。この“*Als*”の基になっているギリシャ語はテクニクの語源の“*Techne*”と言われておりますので、現代における「芸術」や「美術」を意味する“*Art*”のそもそもの語源の意は、「技術・医学・美術などを包括する術、手腕、技能、才能、学問」であると考えられます。

さて、今号編集後記の写真は美術館建造物としては有名な上野の国立西洋美術館です。ここには19世紀から20世紀前半のモネ、ルノアールなど印象派の絵画や「考える人」で有名なロダンの彫刻を中心とする松方コレクションが基となった美術品が収められております。戦前の実業家である松方幸次郎は、収集品の一部をパリのロダン美術館に預けておりましたが、敗戦による敵国資産として、フランス政府にすべて接収されました。戦後、時の首相の吉田 茂の尽力により、コレクション展示のための専用美術館を建築することを条件に日本に返還されることが決まりました。建物の設計は20世紀建築の巨匠ル・コルビュジエが担当し、1959年コレクションの日本への引渡し式が行われるとともに、国立西洋美術館が完成し、一般公開も開始されました。

1階から2階へは階段ではなく、彫刻作品を眺めながら上がれるように傾斜のゆるい斜路になっています。また展示室も、あたかも巻貝が成長するように、将来の拡張を可能にする回廊状とした斬新な構造になっております。現在、フランス政府は世界各国にあるル・コルビュジエの建築物を一括してユネスコに世界遺産として申請中です。

今号の大学広報には、卒業式をはじめとして、若人の前途を祝い、期待する記事が掲載されております。昨日の自分より進歩する今日の自分を目指して、歩んで行ってもらいたいと思います。ヒポクラテスと同じ意味の格言が、東洋にもあります。

「少年老いやすく、学成り難し。一寸の光陰軽んずべからず」と。

（広報・公開講座部長：内山健志）



国立西洋美術館（Wikipediaより転載）